

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2019年6月27日

【事業年度】 第72期(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

【会社名】 ネポン株式会社

【英訳名】 NEPON Inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長兼代表執行役員 福田 晴久

【本店の所在の場所】 東京都渋谷区渋谷一丁目4番2号

【電話番号】 (03)3409 - 3131(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役兼執行役員管理本部長 捧 渡

【最寄りの連絡場所】 東京都渋谷区渋谷一丁目4番2号

【電話番号】 (03)3409 - 3159

【事務連絡者氏名】 取締役兼執行役員管理本部長 捧 渡

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第68期	第69期	第70期	第71期	第72期
決算年月	2015年3月	2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月
売上高 (千円)		7,571,314	7,544,309	8,083,108	8,118,816
経常利益 (千円)		154,178	252,278	219,612	127,441
親会社株主に帰属する 当期純利益 (千円)		67,711	147,823	150,144	52,535
包括利益 (千円)		39,570	172,298	159,154	37,754
純資産額 (千円)		1,922,386	2,070,612	2,193,396	2,194,979
総資産額 (千円)		6,471,399	6,802,626	6,818,403	6,915,457
1株当たり純資産額 (円)		1,604.78	1,728.60	1,831.39	1,832.89
1株当たり当期純利益 (円)		56.52	123.40	125.36	43.87
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)					
自己資本比率 (%)		29.7	30.4	32.2	31.7
自己資本利益率 (%)		3.34	7.4	7.0	2.4
株価収益率 (倍)		25.8	20.9	21.4	33.2
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)		216,080	216,441	238,173	238,684
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)		171,433	125,679	224,942	165,167
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)		100,858	152,959	75,596	76,832
現金及び現金同等物 の期末残高 (千円)		790,200	295,704	235,357	385,337
従業員数 (ほか、平均臨時 雇用者数) (名)		249 (38)	248 (41)	261 (43)	275 (43)

(注) 1 第69期より連結財務諸表を作成しているため、それ以前については記載しておりません。

2 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

4 2018年10月1日を効力発生日として、普通株式10株を1株とする株式併合を実施したため、第69期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益を算定しております。

5 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第72期の期首から適用しており、第71期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第68期	第69期	第70期	第71期	第72期
決算年月	2015年3月	2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月
売上高 (千円)	8,202,495	7,547,608	7,528,148	8,079,536	8,087,902
経常利益 (千円)	266,185	179,095	252,679	210,791	121,788
当期純利益 (千円)	106,495	88,328	143,621	143,889	48,239
資本金 (千円)	601,424	601,424	601,424	601,424	601,424
発行済株式総数 (株)	12,028,480	12,028,480	12,028,480	12,028,480	1,202,848
純資産額 (千円)	1,907,769	1,950,345	2,097,389	2,203,767	2,191,372
総資産額 (千円)	6,675,923	6,458,317	6,814,668	6,814,000	6,921,568
1株当たり純資産額 (円)	1,592.47	1,628.12	1,750.95	1,840.05	1,829.87
1株当たり配当額 (円)	2.00	2.00	3.00	3.00	30.00
(内1株当たり 中間配当額) (円)	()	()	()	()	()
1株当たり当期純利益 (円)	88.89	73.73	119.90	120.13	40.28
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)					
自己資本比率 (%)	28.6	30.2	30.8	32.3	31.7
自己資本利益率 (%)	5.7	4.6	7.1	6.7	2.2
株価収益率 (倍)	24.2	19.8	21.5	22.3	36.2
配当性向 (%)	22.5	27.1	25.0	25.0	74.5
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	224,572				
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	218,480				
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	136,862				
現金及び現金同等物 の期末残高 (千円)	845,054				
従業員数 (名)	232	241	240	252	262
(ほか、平均臨時 雇用者数)	(42)	(38)	(41)	(43)	(42)
株主総利回り (%)	85.4	59.1	104.3	109.5	62.5
(比較指標：東証第二部 株価指数) (%)	(129.5)	(120.8)	(163.7)	(202.9)	(190.7)
最高株価 (円)	295	382	309	392	2,336 (300)
最低株価 (円)	189	118	118	187	1,390 (211)

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

- 3 第69期より連結財務諸表を作成しているため、営業活動によるキャッシュ・フロー、投資活動によるキャッシュ・フロー、財務活動によるキャッシュ・フロー及び現金及び現金同等物の期末残高は記載しておりません。
- 4 第70期の1株当たり配当額3円には、特別配当1円を含んでおります。
- 5 2018年10月1日を効力発生日として、普通株式10株を1株とする株式併合を実施したため、第68期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益を算定しております。
- 6 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 2018年2月16日）等を第72期の期首から適用しており、第71期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。
- 7 株価は東京証券取引所市場第二部におけるものであります。なお、2019年3月期の株価については株式併合後の最高株価及び最低株価を記載しており、株式併合前の最高株価及び最低株価を括弧内に記載しておりません。

2 【沿革】

- 1948年6月 熱ポンプ工業株式会社(現ネポン株式会社)を設立。
熱ポンプ設備を完成。
- 1951年6月 熱ポンプ式冷暖房設備を施工し、本格的に建設業界に進出。
- 1953年9月 熱風炉(油焚温風暖房機)を他に先がけて完成。
- 1960年4月 横浜工場開設。
- 1964年9月 大阪営業所開設。
- 1964年12月 農業用暖房機としてハウスカオンキを発売。
- 1965年7月 全国農業協同組合連合会とハウスカオンキの販売契約を締結。
- 1966年6月 東京中小企業投資育成会社より出資を受ける。
- 1966年12月 現在地に本社を移転。
- 1968年4月 厚木工場開設。
- 1969年4月 現社名に改称。
- 1969年8月 パールトイレ(泡洗式簡易水洗便器)を開発、発売。
- 1974年6月 東京証券取引所市場第2部に上場。
- 1976年12月 資本金5億142万4千円となる。
- 1979年8月 神奈川ネポン販売株式会社を設立。
- 1980年12月 札幌ネポン販売株式会社を設立。
- 1981年6月 横浜工場を厚木工場に統合。
シンクロヒータ(無圧式温水発生機)を開発、発売。
西九州ネポン販売株式会社を設立。
- 1982年3月 東北ネポンサービス販売株式会社(のち東北ネポン販売株式会社)、新潟ネポンサービス販売株式会社(のち新潟ネポン販売株式会社)、静岡ネポンサービス販売株式会社(のち静岡ネポン販売株式会社)、東九州ネポンサービス販売株式会社(のち東九州ネポン販売株式会社)を設立。
- 1985年3月 ユークイック(石油小型給湯機)を開発、発売。
- 1995年4月 ダイレクトヒータ(凍霜害対策用直火焚温風機)を開発、発売。
- 2000年6月 ネポンパーテック株式会社を設立。
- 2003年4月 札幌ネポン販売株式会社を解散。
東北ネポン販売株式会社、神奈川ネポン販売株式会社、新潟ネポン販売株式会社を吸収合併。
- 2004年4月 静岡ネポン販売株式会社、西九州ネポン販売株式会社、東九州ネポン販売株式会社を吸収合併。
- 2007年4月 施設園芸用ヒートポンプ(ネポングリーンパッケージ)及びハイブリッド環境システムを開発、発売。
- 2007年5月 ネポンパーテック株式会社を解散。
- 2007年8月 設備工事業から撤退。
- 2008年4月 第三者割当増資を実施し、資本金6億142万4千円(現資本金)となる。
- 2009年9月 佐藤商事株式会社が、当社の筆頭株主となり、その他の関係会社となる。
- 2012年7月 農業ICTクラウドサービス事業展開を本格化。
- 2013年10月 施設園芸用ヒートポンプ(誰でもヒーポン)を開発、発売。
- 2015年1月 NEPON(Thailand)Co.,Ltd.を設立。

3 【事業の内容】

当社グループは、熱機器及び衛生機器等の製造販売並びにこれらに伴う付帯工事の設計施工を行うとともに、アフターサービス業務を行っております。

当連結会計年度における、各事業に係る主な事業内容は概ね次のとおりであります。

なお、以下に示す区分は、セグメントと同一の区分であります。

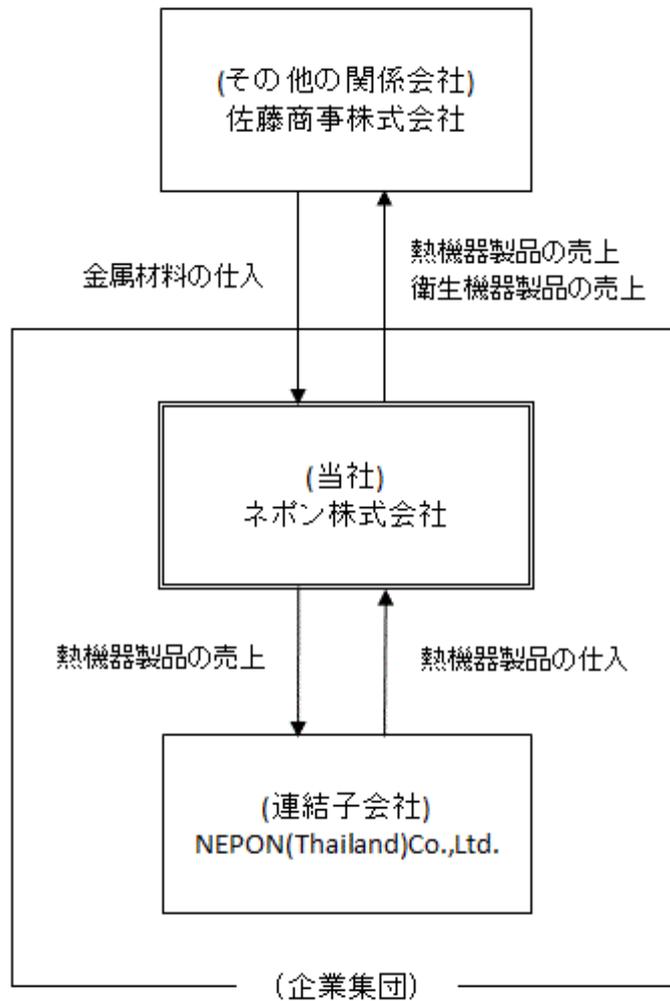
事業		主要な製品等
熱機器事業	農用機器	施設園芸用温風暖房機（ハウスカオンキ） 施設園芸用ヒートポンプ（ネポングリーンパッケージ・誰でもヒーボン） 地熱水利用温風発生装置（グリーンソーラ） 施設園芸用温水ボイラ（ハウスボイラ） 光合成促進機（グロウエア） 施設園芸用ファン 施設園芸用複合環境制御装置 施設園芸用温室天窗開閉装置 乾燥用熱風発生機（カワイター） 施設園芸冷暖房工事 農業機器の関連サービス 農業ICTクラウドサービス
	汎用機器	ビル・工場用温風暖房機（熱風炉） 業務用温水ボイラ（オートカン） 工場用温風暖房機（ヒートトップ） 無圧式温水発生機（シンクロヒータ） 融雪・給湯・暖房・多目的ボイラ（ヒートクイック） コインシャワー装置 給湯・暖房工事 汎用機器の関連サービス
衛生機器事業		泡洗式簡易水洗便器（パールトイレ） 水洗式簡易水洗便器（プリティーナ） 温水洗浄便座（プリティシャワー） パールトイレ用界面活性剤（ネポノール） 業務用トイレシステム 便槽、ポンプアップ槽、中継槽、雨水槽 衛生工事 衛生機器の関連サービス
その他事業		農産物販売 搬送機器サービス等

4 【関係会社の状況】

当社の関係会社の状況は以下のとおりであります。

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有 (被所有)割合 (%)	関係内容
(その他の関係会社) 佐藤商事株式会社(注)	東京都千代田区	1,321,368千円	鉄鋼・非鉄金属、電子材料、機械、 工具、雑貨、貴金属宝飾品、建設資 材、環境関連商材などの国内販売及 び輸出入	(所有) - (被所有) 直接30.15	金属材料の仕入 熱機器製品の売上 衛生機器製品の売上
(連結子会社) NEPON(Thailand) Co.,Ltd.	Thailand	2,000千タイ パーツ	熱機器事業関連	(所有) 49.0	熱機器製品の売上、 仕入

(注) 有価証券報告書提出会社であります。



5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

2019年3月31日現在

従業員数(名)	275 (43)
---------	----------

- (注) 1 従業員数は就業人員数であります。
 2 従業員数欄の()外数は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。
 3 当社は、同一の従業員が複数の事業に従事しているため、セグメントに関連付けての記載は行っておりません。

(2) 提出会社の状況

2019年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
262 (42)	42.1	14.4	5,488

- (注) 1 従業員数は就業人員数であります。
 2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
 3 従業員数欄の()外数は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。
 4 当社は、同一の従業員が複数の事業に従事しているため、セグメントに関連付けての記載は行っておりません。

(3) 労働組合の状況

当社の労働組合は次のとおりであります。

名称	ネポン労働組合
所属上部団体	日本化学エネルギー産業労働組合連合会
組合員	224名
労使関係	特記すべき事項はなく、労使関係は安定しております。

第2 【事業の状況】

1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

(1) 会社の経営の基本方針

当社グループは、創業者の『みんなが豊かな生活に』『世界に二つとない商品を開発しよう』をモットーに、健全な事業活動を通して人を大切に、優れた製品の提供を通して社会の発展に貢献することを企業理念としております。

従いまして、株主・ユーザー・取引先のほか、全てのステークホルダーにとって価値あるべく、常に経営の効率化と収益性の向上を目指した事業活動を展開するとともに、将来に向け新分野、新事業へ展開していくことを経営の基本方針といたしております。

(2) 目標とする経営指標

当社グループは、目標とする経営指標を売上高及び経常利益の拡大、自己資本比率の向上に位置付け、収益の改善を進めてまいります。

(3) 中長期的な会社の経営戦略

当社グループは、熱機器の製造・販売から現在に至っており、その過程の中で熱と流体を制御する技術を蓄積してまいりました。その技術を駆使し、当社が携わる事業領域の一つのセグメントである農業界においては、確固たる事業基盤を構築しております。

また、顧客志向を第一に考え、『お客様が求める環境作りのために私たち（社員）はお客様の声を起点に農と住の明日を創造する会社を目指します。』を事業骨子と位置付けております。

(4) 会社の対処すべき課題

当社グループを取巻く経営環境は、底打ち感はあるものの施設園芸業界における設備投資の減退、また資材の高騰による原価の上昇により、厳しい状況が続くものと予想しております。以下の重点項目を更に強化することにより収益力の向上及び経営体質の強化を図ってまいります。

従業員の育成

全従業員への経営理念の徹底は勿論のこと、業務に対する意識の高揚、スキルアップを第一の重点課題として取り上げ、体質改善に取り組めます。また総合力の向上を目的に取り組み、各業務の標準化を進め、情報・ノウハウの共有化を強化すると同時に各部門、各個人間の業務を円滑且つスピーディーに対処できる組織作りに努めます。

今後当社グループは栽培ノウハウ（植物生理）を蓄積するべきと定め、既存の「熱と流体を制御する技術」に付加する形で向上させ、競争力の強化を図ります。

サプライチェーンの強化

NPS(ネボン プル生産システム)プロジェクトにおいて「工場にモノを溜めない」をスローガンに営業情報を基に展開される調達～生産～納品の一連の業務、所謂サプライチェーンを継続して強化します。納品までのリードタイムを圧縮し、機会損失の削減とお客様の要望に少しでも迅速に対応できるよう努めます。また、棚卸資産の圧縮及び棚卸資産の回転率向上に努めます。

コスト低減の徹底

先に記載したNPSプロジェクトにおいて、直接、間接部門を問わず全社でコスト削減に取り組んでおります。コスト低減を進める一方、品質をより向上させる目的で当社の品質管理システムを見直し、再構築いたします。更に熱機器事業の生産の一部をタイ国に移管し、低コストで安定的な供給に取り組みつつ、協力会社等の調達先の監査・指導を強化することにより、品質の向上と協力関係の強化を図ります。

メンテナンス・サービスの強化

サービスセンター構想を継続して推進することにより、メンテナンス・サービス部門の人員及びスキルを更に増強し、顧客満足度と収益を向上させ企業価値を高めます。

マーケティングの拡充

顧客満足度の向上を目的に施設園芸用温風暖房機（ハウスカオンキ）の主要な部品である缶体（燃烧室）の10年保証制度を行っております。この制度を活用することにより、購入した顧客に対し一層の「安心・安全」を提供すると共に、顧客の機械の使用状況、栽培作物等についての情報を体系化し今後の製品開発に活かします。また、海外市場では東南アジア諸国において、施設園芸の拡充に取り組んでいきます。

環境問題への取組みについて

CO₂削減とエネルギー使用量の圧縮を実現する為、施設園芸用ヒートポンプ（ネポングリーンパッケージ）の更なる拡販とバイオマス利用の施設園芸用温風暖房機（ペレットハウスカオンキ）が市場に定着するよう注力いたします。今後も環境負荷低減が実現できる製品を開発します。

内部統制の取組みについて

当社グループでは「内部監査室」と「コンプライアンス・リスク管理委員会」を設置しております。「コンプライアンス・リスク管理委員会」内部には「情報管理室」、「環境推進室」、「危機管理対策室」を併設し、全ての従業員が法令遵守はもとより、社会規範、倫理観を共有するよう推進します。企業の透明性を高め、全てのステークホルダーから信頼され得る職務の執行、行動を心掛け、健全な企業運営に努めます。

2 【事業等のリスク】

当社グループの経営成績、財政状態及び株価等に影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

エネルギー情勢への依存度

熱機器事業の施設園芸用温風暖房機は、その燃料の大半を石油に依存しており、原油価格の動向は生産者の設備投資意欲に影響を及ぼす可能性があります。

競争激化による価格競争

熱機器事業の施設園芸用温風暖房工事について、農業事業の規制緩和による異業種からの参入に伴う価格競争が収益に影響を及ぼす可能性があります。

社会情勢

熱機器事業の農用機器については、国内農業人口の減少、高齢化、後継者不足等による新規設備投資の減少、台風等の自然災害による施設園芸用温室の倒壊等による撤退により、施設園芸用温風暖房機等の業績に影響を及ぼす可能性があります。

衛生機器事業については、下水道の普及による簡易水洗便器の市場縮小などが業績に影響を及ぼす可能性があります。

制度利用

施設園芸業界は、施設園芸農家支援のための国、地方自治体が行う公的資金を利用した事業がかなりを占め、この予算の推移が業績に影響を及ぼす可能性があります。

季節変動による影響

猛暑及び暖冬が、熱機器事業の施設園芸用温風暖房機の稼働に影響し、メンテナンスサービスによる収益が減少する恐れがあります。

為替の変動

海外取引を拡大することによる、為替の変動が業績に影響を及ぼす可能性があります。

3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループ（当社及び連結子会社）の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

財政状態及び経営成績の状況

当連結会計年度におけるわが国経済は、政府の経済対策の推進等により、企業収益や雇用環境の改善等に緩やかな回復傾向があったものの、英国のEU離脱問題、中国経済の減速などの影響により、世界経済の下振れリスクが懸念され、先行きが不透明な状況が続いております。

このような経営環境の中で、当社グループ（当社及び連結子会社、以下同じ）は『お客様が求める環境作りのために私たち（社員）はお客様の声を起点に農と住の明日を創造する会社を目指します』を事業骨子とし、引き続き販売力の強化や新製品の開発に取り組んでまいりました。

当社グループが主力としております熱機器事業の農用機器は、積極的な営業活動により、施設園芸用暖房工事の受注が堅調に推移した結果、売上高は81億1千8百万円（前年同期比0.4%増）となりました。

損益面においては、主に積極的な開発投資の強化等による販売費及び一般管理費の増加により、営業利益は1億3千6百万円（前年同期比40.7%減）、経常利益は1億2千7百万円（前年同期比42.0%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は5千2百万円（前年同期比65.0%減）と、前年同期を下回る結果となりました。

当連結会計年度のセグメント別の業績は、以下のとおりとなります。

[熱機器事業]

当社グループが主力としております熱機器事業の農用機器は、積極的な営業活動により、施設園芸用暖房工事の受注が堅調に推移した結果、熱機器事業の売上高は75億3千2百万円（前年同期比0.9%増）となりました。

[衛生機器事業]

衛生機器事業においては、便槽を中心とした拡販活動等に注力しましたが、簡易水洗便器市場の縮小等により、売上高は5億5千4百万円（前年同期比2.4%減）となりました。

[その他事業]

その他事業におきましては、農産物販売の減少等により売上高は3千1百万円（前年同期比39.3%減）となりました。

また、当連結会計年度の財政状態は、以下のとおりとなります。

当連結会計年度末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ9千7百万円増加し、69億1千5百万円となりました。

当連結会計年度末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ9千5百万円増加し、47億2千万円となりました。

当連結会計年度末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べ1百万円増加し、21億9千4百万円となりました。

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度のキャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、以下のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フローは、2億3千8百万円のプラス（前連結会計年度は2億3千8百万円のプラス）となりました。

その主な要因は税金等調整前当期純利益1億2千2百万円、減価償却費の計上1億7千9百万円、売上債権の減額6千7百万円、仕入債務の増額3千6百万円、法人税等の支払額1億1千5百万円であります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、1億6千5百万円のマイナス（前連結会計年度は2億2千4百万円のマイナス）となりました。

その主な要因は、有形固定資産の取得による支出1億6千7百万円、無形固定資産の取得による支出9百万円であります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、7千6百万円のプラス（前連結会計年度は7千5百万円のマイナス）となりました。

その主な要因は、借入金の純増による3億5千9百万円のプラス、社債の純減による2億2千万円のマイナスであります。

この結果、現金及び現金同等物の当連結会計年度末における残高は、3億8千5百万円となりました。

生産、受注及び販売の実績

(a) 生産実績

当連結会計年度における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(千円)	前年同期比(%)
熱機器事業	7,060,166	1.5
衛生機器事業	544,616	4.8
その他事業	26,281	37.6
合計	7,631,063	2.0

- (注) 1 金額は標準販売価格によっております。
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(b) 受注実績

当社グループの受注生産は「熱機器事業」の中の「施設園芸冷暖房工事」、「給湯・暖房工事」、「衛生機器事業」の中の「衛生工事」であり、他は全て需要予測による見込生産を行っております。

当連結会計年度における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(千円)	前年同期比(%)	受注残高(千円)	前年同期比(%)
熱機器事業	2,183,841	11.5	244,502	2.7
衛生機器事業	9,604	56.7		
その他事業				
合計	2,193,445	10.7	244,502	2.7

- (注) 1 金額は標準販売価格によっております。
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(c) 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(千円)	前年同期比(%)
熱機器事業	7,532,759	0.9
衛生機器事業	554,534	2.4
その他事業	31,521	39.3
合計	8,118,816	0.4

(注) 1 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合

相手先	前連結会計年度		当連結会計年度	
	販売高(千円)	割合(%)	販売高(千円)	割合(%)
佐藤商事株式会社	1,464,552	18.1	1,623,588	20.0

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識および分析・検討内容は次のとおりであります。なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表を作成するにあたり、重要となる会計方針については「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項 (連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)」に記載のとおりであります。

なお、見積り及び判断・評価については、過去実績や状況に応じて合理的と考えられる要因等に基づき行っておりますが、見積り特有の不確実性があるため、実際の結果は異なる場合があります。

当連結会計年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

(a) 経営成績の分析

[売上高]

当社グループが主力としております熱機器事業の農用機器は、積極的な営業活動により施設園芸用暖房工事の受注が堅調に推移した結果、当連結会計年度の売上高は81億1千8百万円(前年同期比0.4%増)となりました。

[営業利益]

売上高は増加しましたが、積極的な開発投資の強化等による販売費及び一般管理費の増加により、当連結会計年度の営業利益は1億3千6百万円(前年同期比40.7%減)となりました。

(b) 財政状態の分析

[流動資産・固定資産]

当連結会計年度末における流動資産は、前連結会計年度末に比べ、売上債権が6千7百万円減少しましたが、現金及び預金が1億3千7百万円、棚卸資産が5千2百万円増加したこと等により、1億1千6百万円の増加となりました。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ、有形固定資産が6千3百万円増加しましたが、投資その他の資産が4千万円、無形固定資産が4千2百万円減少したこと等により、1千9百万円の減少となりました。

[流動負債・固定負債]

当連結会計年度末における流動負債は、前連結会計年度末に比べ、1年内償還予定の社債が8千万円減少しましたが、短期借入金が2億円増加したこと等により、1億4百万円の増加となりました。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ、長期借入金が1億2千2百万円増加しましたが、社債が1億4千万円減少したこと等により9百万円の減少となりました。

[純資産]

当連結会計年度末における純資産は、前連結会計年度末に比べ、親会社株主に帰属する当期純利益を5千2百万円計上したこと等により、1百万円の増加となりました。

以上の結果、前連結会計年度末に比べ、総資産は9千7百万円増加し、69億1千5百万円となりました。

(c) キャッシュ・フローの分析

当連結会計年度末のキャッシュ・フローの分析については、「(1) 経営成績等の状況の概要 キャッシュ・フローの状況」に記載しております。

(d) 財政状態及び経営成績に重要な影響を与える要因について

「2 事業等のリスク」に記載のとおりであります。

(e) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

[資金需要]

当社グループの資金需要の主なものは、製品製造のための材料、部品の購入及び設備投資によるものであります。

[財務政策]

当社グループの事業活動に必要な資金を安定的に確保するために、内部資金の活用及び金融機関からの借入により資金調達しております。

当社グループは、在庫金額の抑制を図り資金負担を軽減するとともに、営業活動によるキャッシュ・フローを生み出すことによって、将来必要な運転資金及び設備投資資金を調達していく考えであります。

(f) 経営方針・経営戦略等又は経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

当社グループは、目標とする経営指標を売上高及び経常利益、自己資本比率と位置付けております。

当連結会計年度における売上高は、積極的な営業活動により、施設園芸用暖房工事の受注が堅調に推移した結果、売上高は81億1千8百万円(前年同期比0.4%増)となりました。

損益面においては、主に積極的な開発投資の強化等による販売費及び一般管理費の増加により、営業利益は1億3千6百万円(前年同期比40.7%減)、経常利益は1億2千7百万円(前年同期比42.0%減)、親会社株主に帰属する当期純利益は5千2百万円(前年同期比65.0%減)と、前年同期を下回る結果となりました。

また、自己資本比率は31.7%と前年並みに推移いたしました。

引き続き、資本・資産効率をより意識し、収益改善を進め、目標とする経営指標の改善に努めてまいります。

4 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

5 【研究開発活動】

当社グループにおける研究開発活動は当社が行っております。当社グループの研究開発活動は、顧客ニーズ、市場状況、当社重要技術から開発ロードマップを定め、その方向性に従い製品開発を進めています。また、VE（バリューエンジニアリング）による製品の更なる改良、改善及び新製品開発も行っています。

当連結会計年度における主な研究開発活動は以下の通りです。

- ・施設園芸用ハウスの大規模化と、その暖房、CO2供給に利用される暖房機器の高効率化と排ガスのクリーン化に対応する大規模施設向け高性能温水発生機を開発し、72期8月に上市しました。
- ・施設園芸用ヒートポンプは、寒冷地仕様10馬力ヒートポンプの開発を進め、72期9月に上市しました。また、低騒音化を図ったVE機開発を進めており、73期7月に上市する予定です。
- ・工場用温風暖房機（熱風炉）の小型高出力型開発を継続して進めており、73期9月からモニター販売を予定しています。
- ・農業用ICTクラウド事業におけるサービスの向上を目指して「アグリネット アドバンス版」を73期10月に上市する予定で開発を進めています。この「アグリネット アドバンス版」は、お客様のニーズに応えるべく、基礎から再構築しなおして最新のIoT技術を採用したシステムです。高いリアルタイム性能を備え、また拡張性に優れたIoTシステムであり、現場機器の情報をリアルタイムでモニタリングできることや、他のIoTシステムとの連動も容易に実現できるシステムとして開発しています。また利用者の使い易さも追及し、操作画面のUI/UXを根本から見直し、画面デザインを一新する予定です。更にこの「アドバンス版」の上市にあわせて、これに対応した通信装置も開発しています。従来の「アグリネット」を「スタンダード版」と位置づけて、利便性の高い「アドバンス版」を新たにラインナップに追加し、施設園芸業界へサービス提供をして参ります。
- ・中規模圃場から大規模圃場に対応可能な環境制御盤「MC-6001」を開発して72期10月に上市しました。この制御盤は、ソフト面、ハード面共に改善を図った製品です。制御仕様は、ユーザーから評価を頂いている従来の制御仕様を基に機能拡張を施し、ハウス内の環境制御がより行いやすい機能を多数追加いたしました。また操作性を向上するために、カラー液晶画面とジョグダイヤルを採用し、現場目線での操作性改善を図っています。そして「アグリネット」との連携により更に利便性が高まる製品です。
- ・当社製品に組込む基板の共用化を図るために、共用制御モジュール基板の開発を進めています。また同時に小電力無線技術を用いた通信基板を開発しています。これらの基板を組み合わせることでICTを利用した新たなサービス展開と製品のコストダウンを進めており、74期に上市する新製品へ適用していく予定です。

当連結会計年度の研究開発費は、788百万円となりました。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度における設備投資総額は204百万円であります。なお、有形固定資産の他、無形固定資産への投資を含めて記載しております。

2 【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

2019年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (名)	
			建物及 び構築 物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積m ²)	リース 資産	その他		合計
厚木工場 (神奈川県厚木市)	熱機器事業 衛生機器事業 その他事業	全製品生産 設備	684,072	114,120	169,066 (78,627)	68,091	188,953	1,224,304	152 (30)
新潟営業所 (新潟県新潟市西区)	熱機器事業 衛生機器事業 その他事業	事務所	7,588		53,361 (363)		298	61,248	4 ()

- (注) 1 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具備品及びソフトウェアであります。
2 上記の金額には消費税等は含まれておりません。
3 従業員数欄の()外数は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。

(2) 国内子会社

該当事項はありません。

(3) 在外子会社

主要な設備はありません。

3 【設備の新設、除却等の計画】

該当事項はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	2,400,000
計	2,400,000

(注) 2018年6月28日開催の第71回定時株主総会において、株式併合にかかる議案(当社普通株式について、10株を1株に併合)が承認可決されております。これにより、株式併合の効力発生日(2018年10月1日)をもって、発行可能株式総数は21,600,000株減少し、2,400,000株となっております。

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (2019年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (2019年6月27日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	1,202,848	1,202,848	東京証券取引所 (市場第2部)	単元株式数 100株
計	1,202,848	1,202,848		

- (注) 1. 2018年6月28日開催の第71回定時株主総会において、株式併合にかかる議案(当社普通株式について、10株を1株に併合)が承認可決されております。これにより、株式併合の効力発生日(2018年10月1日)をもって、発行済株式総数は10,825,632株減少し、1,202,848株となっております。
2. 2018年5月29日開催の取締役会において、単元株式数の変更を決議したことにより、同年10月1日を効力発生日として、当社の単元株式数を1,000株から100株に変更しています。

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2008年4月17日	2,000,000	12,028,480	100,000	601,424	90,000	445,865

(注) 2008年4月17日を払込期日とする第三者割当による新株発行により発行済株式が2,000,000株増加し、発行済株式総数残高は12,028,480株となり、この発行価額のうち、100,000千円を資本に組入れた結果、資本金残高は601,424千円となり、資本準備金が90,000千円増加しております。

新株式の発行形態 有償第三者割当
発行株式の種類及び数 普通株式 2,000,000株
発行価額 190,000千円
資本組入額 100,000千円

(5) 【所有者別状況】

2019年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	7	15	51	6	1	592	672	
所有株式数(単元)	-	1,294	83	5,503	100	2	5,007	11,989	3,948
所有株式数の割合(%)	-	10.79	0.69	45.90	0.83	0.02	41.77	100.00	

(注) 自己株式5,294株は「個人その他」欄に52単元及び「単元未満株式の状況」欄に94株含めております。

(6) 【大株主の状況】

2019年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
佐藤商事株式会社	東京都千代田区丸の内1-8-1 丸の内トラストタワーN館16階	359	30.05
福田 公一	神奈川県横浜市青葉区	62	5.21
福田 晴久	神奈川県横浜市青葉区	53	4.51
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1-1-2	49	4.14
ネボン共栄会	神奈川県厚木市上古沢411	45	3.79
ユニテック株式会社	愛媛県四国中央市川之江町4087-24	31	2.61
株式会社きらぼし銀行	東京都港区南青山3-10-43	29	2.47
住友生命保険相互会社	東京都中央区築地7-18-24	27	2.28
鈴木 愛子	東京都渋谷区	23	1.99
株式会社高原興産	東京都港区白金台3-2-24	23	1.97
計		706	59.02

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2019年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 5,200		
完全議決権株式(その他)	普通株式 1,193,700	11,937	
単元未満株式	普通株式 3,948		
発行済株式総数	1,202,848		
総株主の議決権		11,937	

(注) 1. 「単元未満株式」欄には、当社所有の自己株式94株が含まれております。

2. 2018年5月29日開催の取締役会の決議により、2018年10月1日付で単元株式数を1,000株から100株に変更しております。また、2018年6月28日開催の第71回定時株主総会の決議により、2018年10月1日付で株式併合(10株を1株に併合)を行ったため、提出日現在の発行済株式総数は、10,825,632株減少し、1,202,848株となっております。

【自己株式等】

2019年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
ネボン株式会社	東京都渋谷区渋谷1-4-2	5,200		5,200	0.44
計		5,200		5,200	0.44

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	491	131,001
当期間における取得自己株式	-	-

(注) 1. 当期間における取得自己株式には、2019年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

2. 2018年10月1日付で普通株式10株を1株とする株式併合を実施しております。当事業年度における取得自己株式数491株の内訳は株式併合前479株、株式併合後12株であります。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他()	-	-	-	-
保有自己株式数	52	-	52	-

(注) 当期間における保有自己株式数には、2019年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

3 【配当政策】

当社は、厳しい経済環境のなか将来の事業展開に備えて、企業体質の強化を図るための内部留保の充実に努めるとともに、安定的な配当水準を維持することを基本方針としております。

当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としており、これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

また、当社は、「取締役会の決議により、毎年9月30日を基準日として中間配当を行うことができる」旨を定款に定めております。

当事業年度の配当金につきましては、上記方針に基づき、普通配当1株当たり30円としております。なお、内部留保資金の用途につきましては、今後予想される経営環境の変化に対応すべく、人的投資、設備投資のほか社内体制の更なる整備のために有効投資して参りたいと考えております。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額	1株当たり配当額
2019年6月27日 定時株主総会決議	35,926千円	30円

4 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの概要】

(コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方)

当社は、経営の迅速な意思決定に努めるだけでなく、経営の透明性・公正性を高めるべく適時・適切な情報開示を行うなど、社内体制の強化に努めております。

企業統治の体制

企業統治の体制につきましては、会社法に基づく機関として、株主総会及び取締役のほか、取締役会、監査役、監査役会、会計監査人を設置しており、これらの機関のほかに、経営会議、内部監査室、コンプライアンス・リスク管理委員会（以下「CR委員会」という。）を設置しております。現状の体制につきましては、取締役の人数は5名（うち社外取締役1名、提出日現在）であり、相互チェックを図るとともに、監査役3名（うち社外監査役2名、提出日現在）による監査体制、並びに、監査役が会計監査人や内部監査室と連携を図る体制により、十分な執行・監督体制を構築しているものと考え採用しております。

具体的な会社の機関の概要及び内部統制システム（リスク管理体制を含む）の整備の状況については、以下のとおりであります。

a . 会社機関の概要

当社の会社機関の概要は、次のとおりであります。

< 取締役会 >

取締役会は、社外取締役1名を含む計5名（男性5名、女性0名、提出日現在）の取締役で構成されております。原則毎月1回開催することに加え、必要に応じて機動的に開催しております。取締役会では、会社法で定められた事項及び重要事項の決定を行い、業務執行状況の報告を受け、職務執行を監督しております。

なお、当社は、取締役会の円滑な運営を行うことを目的に、会社法第370条の要件を満たす場合は、取締役会の決議の目的事項である事項につき、取締役会の決議があったものとみなす旨を定款で定めております。

< 監査役・監査役会 >

当社は、監査役・監査役会を設置しております。監査役は、株主の負託を受けた独立の機関として、取締役会等の重要な会議に出席し、職務執行を監査することで、会社の健全な経営と社会的信用の維持向上に努めております。また監査役会は、監査役3名（うち社外監査役2名、提出日現在）により構成されており、監査役相互間で知識、情報の共有や意見交換を行い、より客観性の高い監査に努めております。また、会計監査人より定期的な報告を受け、また必要に応じて随時情報交換を行い、実効性の高い監査を実現すべく連携をとっております。

< 経営会議 >

経営会議は、取締役会の委嘱を受けた事項、その他経営に関する重要事項を協議または決議しております。取締役兼執行役員及び本部長等の者で構成されており、原則として月1回開催し、各部門から現状報告や提案がなされ、業務執行に関する具体的な対策等を決定しております。

< 内部監査室 >

内部監査室は、業務執行組織から独立した客観的な観点で、社内における法令等の順守状況を監視するとともに、重要性及びリスクを考慮して内部監査を実施し、経営者に対して報告や提言を行っております。

<CR委員会>

「CR委員会」は、コンプライアンス・リスク管理規程(以下「CR管理規程」という。)を策定し、リスク回避・発生の予防及び事後の対応・体制の構築を行い、健全な企業体制を構築しております。

全ての従業員が法令順守はもとより、社会規範、倫理観を共有し、全てのステークホルダーから信頼され得る職務の執行及び行動を心がけ、「CR委員会」の下部組織として、「環境推進室」、「情報管理室」、「危機管理対策室」を設置し、対応を行っております。

<会計監査人>

当社は、清明監査法人との間で、監査契約を締結しております。

b. 内部統制システムの整備の状況

当社は、従前からコンプライアンス(法令順守)、内部監査、リスクマネジメント等の取り組みを通じて内部統制システムの運用を図り、また、監査役への報告体制の整備等、監査役監査の実効性の確保に向けた取り組みを行っており、それらを会社法の定めに基づき整理及び整備しております。

ただし、会社を取り巻く状況は不変ではなく、また適正な内部統制システムも不変ではないことから、今後も内部統制システムを継続的に随時見直していくこととし、適正な業務執行のための企業体制の維持・向上に努めております。

イ. 取締役及び従業員の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

当社はすべての取締役及び従業員が企業人・社会人としてコンプライアンスはもとより、社会規範、倫理観を共有し、社会及び市場から信頼され得る職務の執行、行動を常に心がけ、健全な企業体制を構築しております。

上記の体制を確立するために当社は以下のことを具体的に定めております。

- ・コンプライアンスを全社的に統括する組織として、「CR委員会」を設置しております。当組織は社長を委員長とし、各取締役、常勤監査役、内部監査室長、法務担当者等を中心とする各担当を核とし、必要に応じ弁護士、公認会計士も参加できる体制とし、コンプライアンスの推進、研修、教育、及び倫理的な問題提起や議論を通じ、健全な企業体制を構築しております。
- ・コンプライアンス違反のチェック体制として、コンプライアンスに関する相談、報告窓口を設置し、不正行為等に関する相談・報告は社員の義務として定めており、相談・報告者は社内的に保護します。また、内部監査室より経営者に対し、内部監査結果を年に1回報告しております。
- ・管理職教育を定期的に行い、就業規則、社内規程の周知徹底を図り、各段階で透明性を高め、チェック機能が有効に機能する体制を構築しております。更に役職、資格・等級および役割を明確化させ、決裁可能範囲の可視化を行っております。

ロ. 取締役の職務の執行に係わる情報の保存及び管理に関する体制

当社は、取締役会議事録等法令で定められているものをはじめ、社内文書に関しましても「文書管理規程」の定めに基づき適正に管理しております。

また、責任、権限、役割の見直し、共通決裁項目の平準化と決裁基準及び稟議規程の整備、電子化により一元管理を行い、必要な情報の管理、共有化を図るとともに情報セキュリティの強化、迅速なデータ提供を実現する体制を構築しております。

ハ. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

当社はリスク管理体制において、リスク回避・発生の予防及び事後の対応・体制の二点に重点を置き、「CR管理規程」を策定し法令的な事項、製造物に対する責任及びリスク管理に関しては「CR委員会」、その他に関しては「経営会議」にて「CR管理規程」に従い随時検討しリスク回避・発生の予防に努めております。

また、危機等発生時は「CR委員会」の招集による「危機管理対策室」にて対応する体制となっております。事後の経済的リスクの回避については定期的に外部の専門家と協議し、対処しております。

二．取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

当社は効率的に取締役が職務を執行するために、担当取締役制を採用するとともに職務権限規程、各部決裁基準、職務分掌により職務の権限の範囲を明確にしております。

また、取締役会にて執行役員を任命し、取締役会の業務執行をより迅速、効率的に執行できる体制を構築し、取締役会の下により具体的な検討及び執行の手順を検討する「経営会議」を設置して迅速な意思決定を行っております。

ホ．監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する体制

当社は、監査役の要請又は必要に応じて監査役の職務を補助するため、監査事務局を設置し使用人を置くこととします。

ヘ．前号の使用人の取締役からの独立性に関する事項

監査事務局の使用人はその独立性確保のため、使用人の任命には事前に監査役会の同意を得るものとし、指揮、命令に関しては監査役以外に服さないものとします。

また、その人事考課については常勤監査役が行い、使用人の異動、懲戒については監査役会の同意を得るものとします。

ト．取締役及び使用人が監査役に報告するための体制その他の監査役への報告に関する体制

取締役及び使用人は、会社の業績の低下に著しく影響を与えたもの、会社の信用低下に著しく影響を与えたもの及び各々おそれのあるものについては、直ちに監査役に対し報告するものとします。

また、監査役は取締役会やその他必要に応じて重要な意思決定会議に出席するとともに、重要な決定事項については、取締役は定期的に監査役会に報告するものとします。

チ．その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

監査役、社外監査役の選任に当たり、実効性を確保するためにその候補者は経済的にも職務的にも独立性を確保できる人物を選定いたします。

また、監査役、会計監査人との情報交換、意見交換等を密に行う体制を確保します。

ｃ．子会社の業務の適正を確保するための体制整備の状況

当社は、子会社の管理体制について当社の「稟議基準」にて重要な意思決定事項を定めております。また、定期的に管理部門が財務諸表の内容確認を行うことで、業務の適正を確保してまいります。

責任限定契約の内容の概要

ａ．取締役及び監査役

当社と取締役（業務執行取締役等であるものを除く。）及び監査役は、会社法第427条第1項の規程に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該限定契約が認められるのは、当該取締役及び監査役がその責任の原因となった職務の遂行について善意でかつ重大な過失がないときに限られます。

ｂ．会計監査人

当社は、会計監査人清明監査法人との間で、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。

当該契約に基づく損害賠償の限度額は法令に定める額としております。

取締役の選任決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨及び累積投票によらない旨を定款に定めております。

取締役の定数

当社の取締役は20名以内とする旨を定款に定めております。

株主総会決議事項を取締役会で決議することとした事項

イ．自己の株式の取得の決定機関

当社は、自己株式の取得について、経営環境の変化に対応し、資本政策を機動的に遂行することを可能とするため、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。

ロ．中間配当

当社は、株主への適時適正な利益還元を可能にするため、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって毎年9月30日の最終の株主名簿等に記載又は記録された株主又は登録株式質権者に対し、中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

ハ．取締役及び監査役の責任免除

当社は、会社法第426条第1項に定める取締役会の決議をもって、同法第423条第1項の取締役（取締役であった者を含む）及び監査役（監査役であった者を含む）の損害賠償を法令の限度において免除することができる旨を定款に定めております。これは、取締役及び監査役が職務を遂行するにあたり、期待される役割を十分に発揮できる環境を整備することを目的としております。

株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会の円滑な運営を行うことを目的として、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。

(2) 【役員の状況】

役員一覧

男性8名 女性0名 (役員のうち女性の比率0%)

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役会長	福 田 公 一	1941年10月17日	1965年3月 当社取締役 1970年2月 取締役厚木工場長 1972年8月 常務取締役厚木工場長 1976年6月 取締役副社長 1977年2月 代表取締役社長 2006年6月 取締役会長(現任)	(注)4	62.3
代表取締役 社長 代表執行役員	福 田 晴 久	1971年7月9日	1998年4月 富士電機株式会社入社 2000年3月 当社入社 2000年6月 取締役技術本部部長 2002年10月 専務取締役 2006年6月 代表取締役社長 2006年7月 代表取締役社長兼代表執行役員 (現任)	(注)4	53.9
取締役 執行役員 営業本部長	関 口 昌 行	1961年11月23日	1986年4月 当社入社 2009年10月 生産本部長 2010年6月 執行役員生産本部長 2011年6月 執行役員生産本部長兼品質保証部 担当 2014年4月 執行役員営業本部長 2014年6月 取締役兼執行役員営業本部長(現 任)	(注)4	0.6
取締役 執行役員 管理本部長	捧 渡	1962年7月18日	1985年4月 株式会社住友銀行入行(現 株式 会社三井住友銀行) 2001年4月 同行札幌法人営業部融資オフィ サー兼札幌支店副支店長 2004年2月 同行本店調査役 2006年4月 同行法人企業統括部部長代理 2013年8月 当社管理本部資金部副部長 2014年4月 管理本部資金部長 2014年6月 取締役兼執行役員管理本部長(現 任)	(注)4	0.8
取締役	柳 田 隆 治	1969年12月2日	1993年4月 古賀オール株式会社入社 2000年6月 同社退社 2000年6月 佐藤商事株式会社神奈川支店入社 2007年4月 同社神奈川支店第一課長 2011年4月 同社神奈川支店長(現任) 2015年6月 当社取締役(現任) 2019年4月 佐藤商事株式会社統括部長(現 任)	(注)4	0.2

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
常勤監査役	内田 清美	1948年4月16日	1971年3月 2004年4月 2006年7月 2010年4月 2010年6月	当社入社 財務部長 執行役員財務部長 執行役員管理本部副本部長 常勤監査役(現任)	(注)5	2.8
監査役	大川 康平	1960年9月14日	1984年11月 1985年4月 1987年4月 1994年4月 2012年6月 2015年12月	司法試験合格 司法研修所入所 司法研修所修了 第一東京弁護士会登録 梶谷総合法律事務所入所 大川・永友法律事務所(現大川法律事務所)入所(現任) 当社監査役(現任) イー・ガーディアン株式会社社外取締役(監査等委員)(現任)	(注)5	11.6
監査役	小林 昇	1948年10月11日	1973年4月 2004年7月 2005年7月 2006年7月 2007年7月 2008年8月 2013年6月	国税庁入庁 本所税務署長 東京国税局課税第二部資料調査第一課長 仙台国税局課税第二部次長 板橋税務署長 小林昇税理士事務所設立(現任) 当社監査役(現任)	(注)6	
計						132.4

- (注) 1 取締役柳田隆治は、社外取締役であります。
2 監査役大川康平、小林昇の両氏は、社外監査役であります。
3 代表取締役社長福田晴久は、取締役会長福田公一の長男であります。
4 2018年6月28日開催の定時株主総会の終結の時から2年間。
5 2016年6月29日開催の定時株主総会の終結の時から4年間。
6 2017年6月29日開催の定時株主総会の終結の時から4年間。
7 2004年7月1日より執行役員制度を導入しており、取締役に兼務していない執行役員は、次のとおりであります。

地位	氏名	担当又は主な職業
執行役員	野々下 知 泰	開発部長
執行役員	丹 恭 一	海外事業部長 NEPON(Thailand)Co.,Ltd.代表取締役社長
執行役員	柿 沼 秀 一	管理本部部長

- 8 当社は、法令に定める監査役の数に欠けることになる場合に備え、会社法第329条第3項に定める補欠監査役2名を選任しております。各補欠監査役の略歴は次のとおりであります。なお、三浦伸昭氏は社外監査役の要件を満たしております。

氏名	生年月日	略歴	所有する当社の株式数(千株)
坪 秀 雄	1945年3月31日	1963年3月 当社入社 1980年11月 営業部長 1992年3月 営業本部農用部長 1994年6月 取締役営業本部農用部長 2000年6月 取締役営業本部長兼営業技術部長 2003年4月 取締役営業本部長 2004年7月 取締役兼執行役員営業本部長 2007年6月 取締役退任 現在に至る	3.0
三 浦 伸 昭	1968年1月26日	1992年10月 朝日監査法人入所(現 有限責任あずさ監査法人) 1997年4月 公認会計士登録 1999年1月 三浦公認会計士事務所所長(現任) 2000年4月 ファイナンシャルプランナー取得 2003年10月 税理士登録 2011年7月 当社監査役 2012年6月 当社監査役退任 現在に至る	

社外取締役及び社外監査役との関係

当社の社外取締役の員数は1名、社外監査役の員数は2名であります。

それぞれの社外取締役及び社外監査役の選任の理由は次のとおりです。

(社外取締役)

- 社外取締役柳田隆治氏は、社外取締役として業務執行を行う経営陣から独立した立場から、取締役会の意思決定を行う上での適切な助言と提言をいただくことにより当社の経営に資することが大きいと判断し、選任しております。なお、同氏は、大株主かつ主要取引先である佐藤商事株式会社の統括部長を兼務しております。佐藤商事株式会社は、当社株式の議決権の30.15%を保有しており、その他の関係会社であります。想定される利益相反などの問題に対しては、法令並びに取締役会の規則の定めに従い、適法・適切に対応しており、社外取締役として佐藤商事株式会社からの独立性は確保されており、当社独自の公正な経営判断を妨げるものではないものと判断しております。

(社外監査役)

- 社外監査役大川康平氏は、弁護士としての法律に関する専門的な知識と豊富な実務経験等を有しており、当社の経営に対して同氏の経験を活かした取締役の業務執行に対する独立かつ公正な立場より、客観的な監査意見を期待し選任しております。
- 社外監査役小林昇氏は、税理士として培われた専門的な知識・経験等を当社の監査体制の強化に活かし、取締役の業務執行に対する監査がより適切に行えんと考え選任しております。

(社外役員の選任基準)

- 社外役員は法律上の社外要件を満たしているだけでなく、現在・過去を通じて、親会社、兄弟会社の業務執行者等を務めたことはなく、役員報酬以外に金銭等の財産を得ている者ではないことを選任基準と定めております。
- 社外監査役大川康平および小林昇の両氏は主要な取引先および主要株主の業務執行者等にも該当せず、各々の2親等内の近親者に該当する者はありません。役員報酬以外に多額の金銭等を受領した実績もないこと、および当社と兼職先の法人等との間で特別な取引関係もございません。

上記のとおり、当該社外監査役は十分な独立性を有し、経営の意思決定に独立的な観点から取り組んでおります。独立性の確保に際しては、事前に意思確認および独立性に関するアンケート調査を行った後に、業務を執行する取締役全員および監査役全員が出席する取締役会にて審議の上、決定しております。

(3) 【監査の状況】

内部監査及び監査役監査の状況

当社の内部監査及び監査役監査の組織は以下のとおりであります。

a. 内部監査

当社の内部監査は、内部監査室（従業員 8 名）が所管しております。業務執行組織から独立した客観的な観点で、重要性及びリスクを考慮して内部監査を実施し、経営者に対して報告や提言を行っております。

b. 監査役監査

当社は監査役制度を採用しております。監査役の人数は 3 名（うち社外監査役 2 名、提出日現在）であり、株主の負託を受けた独立の機関として取締役会等の重要な会議に出席し、職務執行を監査することで、会社の健全な経営と社会的信用の維持向上に努めております。

なお、常勤監査役内田清美氏は、当社の経理部に1971年3月から2010年6月まで在籍し、通算39年にわたり決算手続並びに財務諸表の作成等に従事し、税務・会計に関する専門的な知識と豊富な実務経験を有しております。

c. 内部監査、監査役監査及び会計監査の相互連携並びにこれらの監査と内部統制担当との関係

監査役は、会計監査人、内部統制推進室と都度情報交換を実施しており、また必要に応じて監査役会への出席を求め相互の連携が図られております。

内部監査室と内部統制推進室は、会計監査人と協議のうえ年間計画等を作成し、進捗管理を行うことで連携を図っております。内部監査室及び会計監査人は、内部統制推進室から内部統制に係る情報等の提供を受け適正な監査を行っております。

監査役は、会計監査人や内部監査室及び内部統制推進室と連携を図ることにより、十分な監督を行っております。

会計監査の状況

会計監査人については、清明監査法人と監査契約をしており、監査を受けております。当事業年度において業務を執行した公認会計士の氏名、監査業務に係わる補助者の構成は以下のとおりであります。

業務を執行した公認会計士の氏名 貞國 鎮 加賀 聡

監査業務に係わる補助者の構成 公認会計士 5 名 その他 2 名

a. 監査法人の選定方針と理由

監査役会は、当社の会計監査人評価・選定基準に照らして、会計監査人に必要とされる専門性、独立性及び監査の品質管理体制を有していることにより判断しております。

b. 監査役及び監査役会による監査法人の評価

監査役会は、会計監査人に対して評価を行っております。監査役会は、監査実施状況や監査報告書を通じ、品質管理体制について専門性と独立性を有していることを確認しており、監査法人の職務執行に問題がないと評価しております。

監査報酬の内容等

a. 監査公認会計士等に対する報酬

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	25,800		25,800	
連結子会社				
計	25,800		25,800	

b. 監査公認会計士等と同一のネットワークに対する報酬(a.を除く)
該当事項はありません。

c. その他の重要な監査証明業務に基づく報酬の内容
該当事項はありません。

d. 監査報酬の決定方針
監査日数等を勘案したうえで決定しております。

e. 監査役会が会計監査人の報酬等に同意した理由

取締役会が提案した会計監査人に対する報酬等に対して、当社の監査役会が会社法第399条第1項の同意をした理由は、会計監査人の監査計画の内容、会計監査の職務遂行状況及び報酬見積りの算定根拠等について必要な検証及び審議を行った結果、これらが適切であると判断したためであります。

(4) 【役員の報酬等】

役員報酬の内容

a. 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)			対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	54,455	47,655	6,800		4
監査役 (社外監査役を除く。)	6,600	4,600		2,000	2
社外役員	5,160	5,160			3

(注) 使用人兼務役員に支給した使用人分給与は含んでおりません。

b. 使用人兼務役員の使用人分給与のうち重要なもの

該当事項はありません。

c. 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

役員の報酬については、株主総会の決議により取締役及び監査役それぞれの報酬等の限度額を決定しております。各取締役及び監査役の報酬額は、取締役については取締役会の決議により決定し、監査役については監査役の協議により決定しております。

取締役の報酬限度額は、年額250,000千円以内(ただし、使用人分給与は含まない。)、監査役の報酬限度額は、年額20,000千円以内であります。

なお、当社は内規において、役員の基本報酬の決定・改定・減額等の方針及び役員賞与の決定等の方針について定めております。これらの方針に基づき、1年ごとに会社の業績や経営内容、役員本人の成果・責任等を考慮し、役員の報酬等の額を決定しております。

(5) 【株式の保有状況】

投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、投資株式について、主として株式の価値の変動または配当の受領によって利益を得ることを目的として保有する株式を純投資目的である投資株式、それ以外の株式を純投資目的以外の目的である投資株式(政策保有株式)に区分しております。

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

a. 保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

今後も当社が持続的な成長を続けていくためには、様々な企業との協力関係が不可欠です。そのため、当社の企業価値向上、取引先との関係強化等の視点から総合的に勘案し、政策保有株式としています。また、個別の政策保有株式について定期的に精査を実施し、保有の妥当性について検証しています。

b. 銘柄数及び貸借対照表計上額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(千円)
非上場株式	3	12,371
非上場株式以外の株式	6	78,593

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

該当事項はありません。

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の減少に係る売却 価額の合計額(千円)
非上場株式		
非上場株式以外の株式	1	373

c. 特定投資株式及びみなし保有株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報

特定投資株式

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株 式の保有 の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (千円)	貸借対照表計上額 (千円)		
(株)三十三フィナンシャル・ グループ	19,785	19,785	保有目的：取引関係の維持・強化	無(注2)
	30,528	47,088		
富士電機(株)	8,000	40,000	保有目的：取引関係の維持・強化	有
	25,120	28,960		
(株)ダイケン	21,000	21,000	保有目的：取引関係の維持・強化	有
	13,608	16,968		
ユアサ商事(株)	2,500	2,500	保有目的：取引関係の維持・強化	有
	7,800	8,775		
(株)三井住友フィナンシャル グループ	300	300	保有目的：取引関係の維持・強化	無(注3)
	1,162	1,337		
(株)コンコルディア・フィナ ンシャルグループ	876	876	保有目的：取引関係の維持・強化	無(注4)
	374	514		
アサヒ衛陶(株)		2,617	保有目的：取引関係の維持・強化	無
		594		

(注) 1 「 」は、当該銘柄を保有していないことを示しております。

- (株)三十三フィナンシャルグループは当社株式を保有しておりませんが、同社子会社である(株)三重銀行は当社株式を保有しております。
- (株)三井住友フィナンシャルグループは当社株式を保有しておりませんが、同社子会社である(株)三井住友銀行は当社株式を保有しております。
- (株)コンコルディア・フィナンシャルグループは当社株式を保有しておりませんが、同社子会社である(株)横浜銀行は当社株式を保有しております。

保有目的が純投資目的である投資株式
該当事項はありません。

当事業年度中に投資株式の保有目的を純投資目的から純投資目的以外の目的に変更したもの
該当事項はありません。

当事業年度中に投資株式の保有目的を純投資目的以外の目的から純投資目的に変更したもの
該当事項はありません。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(1976年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(1963年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しておりません。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2018年4月1日から2019年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(2018年4月1日から2019年3月31日まで)の財務諸表について、清明監査法人による監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握するために、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、セミナーへの参加や会計専門書の購読を行っております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2 320,357	2 458,337
受取手形及び売掛金	3, 5 2,960,961	3, 5 2,893,349
商品及び製品	541,843	513,397
仕掛品	204,630	208,319
原材料及び貯蔵品	726,117	803,711
その他	3 61,112	3 51,685
貸倒引当金	3,351	802
流動資産合計	4,811,671	4,927,997
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1, 2, 4 608,744	1, 2, 4 711,137
機械装置及び運搬具（純額）	1, 2 131,978	1, 2 114,120
土地	2 224,401	2 224,401
リース資産（純額）	1 84,477	1 68,091
建設仮勘定	700	2,800
その他（純額）	1 93,195	1 86,304
有形固定資産合計	1,143,497	1,206,855
無形固定資産	153,757	111,225
投資その他の資産		
投資有価証券	2 116,608	2 90,964
長期貸付金	10,490	13,499
繰延税金資産	369,566	369,219
退職給付に係る資産	50,371	47,188
その他	162,557	155,096
貸倒引当金	117	6,588
投資その他の資産合計	709,476	669,378
固定資産合計	2,006,731	1,987,459
資産合計	6,818,403	6,915,457

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5 1,182,344	5 1,217,993
短期借入金	2 400,000	2 600,000
1年内償還予定の社債	2 220,000	2 140,000
1年内返済予定の長期借入金	2 362,853	2 398,989
リース債務	22,697	23,875
未払法人税等	76,919	32,574
賞与引当金	135,822	120,029
その他	280,813	252,668
流動負債合計	2,681,450	2,786,130
固定負債		
社債	2 190,000	2 50,000
長期借入金	2 684,573	2 807,178
リース債務	66,573	47,892
役員退職慰労引当金	85,939	90,260
退職給付に係る負債	891,078	913,625
資産除去債務	14,080	14,080
その他	11,311	11,311
固定負債合計	1,943,555	1,934,348
負債合計	4,625,006	4,720,478
純資産の部		
株主資本		
資本金	601,424	601,424
資本剰余金	480,463	480,463
利益剰余金	1,091,947	1,108,553
自己株式	8,571	8,813
株主資本合計	2,165,264	2,181,628
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	28,341	3,879
為替換算調整勘定	1,844	4,670
退職給付に係る調整累計額	1,635	14,142
その他の包括利益累計額合計	28,132	13,351
純資産合計	2,193,396	2,194,979
負債純資産合計	6,818,403	6,915,457

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2017年 4月 1日 至 2018年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)
売上高	8,083,108	8,118,816
売上原価	1 5,119,246	1 5,112,836
売上総利益	2,963,862	3,005,979
販売費及び一般管理費	2, 3 2,734,467	2, 3 2,869,886
営業利益	229,394	136,093
営業外収益		
受取利息	428	818
受取配当金	2,614	2,808
受取地代家賃	8,400	8,400
受取保険金	3,498	-
補助金収入	1,647	4,377
その他	3,937	3,419
営業外収益合計	20,525	19,825
営業外費用		
支払利息	19,716	20,794
その他	10,592	7,682
営業外費用合計	30,308	28,477
経常利益	219,612	127,441
特別利益		
固定資産売却益	4 1,232	-
投資有価証券売却益	4,559	316
収用補償金	29,598	1,620
特別利益合計	35,390	1,936
特別損失		
投資有価証券評価損	-	957
固定資産除却損	5 1,192	5 3,982
会員権評価損	650	-
減損損失	6 2,162	-
固定資産圧縮損	26,691	1,620
特別損失合計	30,696	6,560
税金等調整前当期純利益	224,306	122,817
法人税、住民税及び事業税	105,801	74,329
法人税等調整額	31,639	4,047
法人税等合計	74,162	70,281
当期純利益	150,144	52,535
非支配株主に帰属する当期純利益	-	-
親会社株主に帰属する当期純利益	150,144	52,535

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2017年 4月 1日 至 2018年 3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月31日)
当期純利益	150,144	52,535
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,140	24,461
為替換算調整勘定	900	2,826
退職給付に係る調整額	11,052	12,506
その他の包括利益合計	9,010	14,781
包括利益	159,154	37,754
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	159,154	37,754
非支配株主に係る包括利益	-	-

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 2017年 4月 1日 至 2018年 3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	601,424	480,463	977,739	8,135	2,051,490
当期変動額					
剰余金の配当			35,935		35,935
親会社株主に帰属する当期純利益			150,144		150,144
自己株式の取得				435	435
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	-	114,208	435	113,773
当期末残高	601,424	480,463	1,091,947	8,571	2,165,264

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	29,482	943	9,416	19,121	-	2,070,612
当期変動額						
剰余金の配当						35,935
親会社株主に帰属する当期純利益						150,144
自己株式の取得						435
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	1,140	900	11,052	9,010		9,010
当期変動額合計	1,140	900	11,052	9,010	-	122,783
当期末残高	28,341	1,844	1,635	28,132	-	2,193,396

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	601,424	480,463	1,091,947	8,571	2,165,264
当期変動額					
剰余金の配当			35,930		35,930
親会社株主に帰属する当期純利益			52,535		52,535
自己株式の取得				241	241
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	-	16,605	241	16,364
当期末残高	601,424	480,463	1,108,553	8,813	2,181,628

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	28,341	1,844	1,635	28,132	-	2,193,396
当期変動額						
剰余金の配当						35,930
親会社株主に帰属する当期純利益						52,535
自己株式の取得						241
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	24,461	2,826	12,506	14,781		14,781
当期変動額合計	24,461	2,826	12,506	14,781	-	1,582
当期末残高	3,879	4,670	14,142	13,351	-	2,194,979

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2017年 4月 1日 至 2018年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	224,306	122,817
減価償却費	182,232	179,359
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	45,828	22,546
退職給付に係る資産の増減額(は増加)	7,507	3,183
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	5,280	4,321
賞与引当金の増減額(は減少)	5,516	15,793
貸倒引当金の増減額(は減少)	1,868	3,922
受取利息及び受取配当金	3,042	3,627
受取地代家賃	8,400	8,400
補助金収入	1,647	4,377
支払利息	19,716	20,794
固定資産売却損益(は益)	1,232	-
投資有価証券売却損益(は益)	4,559	316
固定資産除却損	1,192	3,982
投資有価証券評価損	-	957
会員権評価損	650	-
減損損失	2,162	-
収用補償金	29,598	1,620
固定資産圧縮損	26,691	1,620
受取保険金	3,498	-
売上債権の増減額(は増加)	18,310	67,283
たな卸資産の増減額(は増加)	48,344	52,837
仕入債務の増減額(は減少)	126,348	36,012
その他	99,788	8,776
小計	347,973	371,052
利息及び配当金の受取額	2,760	4,361
利息の支払額	18,755	20,794
法人税等の支払額	93,803	115,933
営業活動によるキャッシュ・フロー	238,173	238,684
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	144,000	132,000
定期預金の満期による収入	144,000	144,000
有形固定資産の取得による支出	126,284	167,928
有形固定資産の売却による収入	2,392	-
無形固定資産の取得による支出	91,021	9,401
投資有価証券の売却による収入	7,956	373
保険積立金の保険契約に基づく支出	4,436	1,283
その他	13,548	1,072
投資活動によるキャッシュ・フロー	224,942	165,167
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	1,350,000	900,000
短期借入金の返済による支出	1,200,000	700,000
長期借入れによる収入	859,008	600,000
長期借入金の返済による支出	778,548	440,433
社債の償還による支出	240,000	220,000
自己株式の取得による支出	435	241
配当金の支払額	35,862	35,988
リース債務の返済による支出	22,632	22,697
その他	7,125	3,807
財務活動によるキャッシュ・フロー	75,596	76,832
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,017	368
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	60,347	149,980
現金及び現金同等物の期首残高	295,704	235,357
現金及び現金同等物の期末残高	235,357	385,337

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

すべての子会社を連結しております。

連結子会社の数

1社

連結子会社の名称

NEPON(Thailand)Co.,Ltd.

2. 持分法の適用に関する事項

持分法を適用していない関連会社1社(YUSHI NEPON CO.,LTD.)は、当期純利益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため持分法の適用範囲から除外しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社であるNEPON(Thailand)Co.,Ltd.の決算日は12月31日であります。連結財務諸表の作成にあたっては、同日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については連結上必要な調整を行っております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定しております。)

時価のないもの

移動平均法による原価法

棚卸資産

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

a. 商品及び製品、仕掛品、原材料及び貯蔵品

総平均法

b. 未成工事支出金

個別法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

当社は定率法を採用しております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 7～50年

機械装置及び運搬具 4～13年

在外連結子会社は主として定額法を採用しております。

無形固定資産(リース資産を除く)

自社利用目的のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

市場販売目的におけるソフトウェアは、見込販売数量に基づく償却額と、残存販売有効期間に基づく均等配分額との、いずれか大きい額を計上する方法を採用しております。

なお、当初における販売有効期間は、3年としております。

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

長期前払費用

定額法を採用しております。

(3) 重要な繰延資産の処理方法

社債発行費は、支出時に全額費用として処理しております。

(4) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

売掛金等の債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に充てるため内規に基づく当連結会計年度末要支給額を計上しております。

賞与引当金

従業員の賞与の支給に充てるため、将来の支給見込額のうち当連結会計年度の負担額を計上しております。

(5) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

数理計算上の差異については、発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(11年)による定率法により、発生した連結会計年度から費用処理することとしております。

パートタイマーにおける簡便法の採用

パートタイマーは、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(6) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外連結子会社の資産及び負債は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めております。

(7) 重要な収益及び費用の計上基準

完成工事高及び完成工事原価の計上基準

当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事

工事進行基準(工事の進捗率の見積りは原価比例法)

その他の工事

工事完成基準

(8) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な現金及び容易に換金可能であり、かつ価値の変動について僅少なりリスクが負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(9) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税抜方式によっております。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(未適用の会計基準等)

収益認識に関する会計基準等

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2018年3月30日)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 2018年3月30日)

(1) 概要

収益認識に関する包括的な会計基準であります。収益は、次の5つのステップを適用し認識されます。

- ステップ1: 顧客との契約を識別する。
- ステップ2: 契約における履行義務を識別する。
- ステップ3: 取引価格を算定する。
- ステップ4: 契約における履行義務に取引価格を配分する。
- ステップ5: 履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する。

(2) 適用予定日

2022年3月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

(表示方法の変更)

(連結貸借対照表)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日。以下「税効果会計基準一部改正」という。)を当連結会計年度の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更するとともに、税効果会計関係注記を変更しました。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」の「繰延税金資産」93,614千円は、「投資その他の資産」の「繰延税金資産」369,219千円に含めて表示しております。

また、税効果会計関係注記において、税効果会計基準一部改正第3項から第5項に定める「税効果会計に係る会計基準」注記(注8)(評価性引当額の合計額を除く。)及び同注記(注9)に記載された内容を追加しております。

(連結損益計算書)

前連結会計年度において「営業外収益」の「その他」に含めていた「補助金収入」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結損益計算書の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「営業外収益」の「その他」に表示していた5,584千円は「補助金収入」1,647千円、「その他」3,937千円として組替えております。

前連結会計年度において区分掲記しておりました「営業外費用」の「社債保証料」(当連結会計年度2,329千円)及び「社債事務手数料」(当連結会計年度2,638千円)は、金額が僅少となったため、当連結会計年度においては「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結損益計算書の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「営業外費用」の「社債事務手数料」に表示していた3,275千円、「社債保証料」4,343千円、「その他」2,973千円は、「その他」10,592千円として組替えております。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前連結会計年度において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めておりました「賞与引当金の増減額」及び「補助金収入」は、重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に表示していた92,624千円は、「賞与引当金の増減額」5,516千円、「補助金収入」1,647千円、「その他」99,788千円として組み替えております。

(連結貸借対照表関係)

1 有形固定資産の減価償却累計額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
減価償却累計額	3,208,244千円	3,288,645千円

2 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産及び担保付債務は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年3月31日)		当連結会計年度 (2019年3月31日)	
現金及び預金(定期預金)	2,000千円	(千円)	2,000千円	(千円)
建物及び構築物	358,695 "	(350,646 ")	340,233 "	(332,645 ")
機械装置及び運搬具	1,724 "	(1,724 ")	1,526 "	(1,526 ")
土地	222,427 "	(169,066 ")	222,427 "	(169,066 ")
投資有価証券	46,886 "	(")	30,397 "	(")
計	631,733 "	(521,436 ")	596,585 "	(503,238 ")

	前連結会計年度 (2018年3月31日)		当連結会計年度 (2019年3月31日)	
短期借入金	400,000千円	(400,000 千円)	600,000千円	(600,000 千円)
1年内返済予定の長期借入金	232,013 "	(206,512 ")	291,756 "	(281,688 ")
1年内償還予定の社債に対する 銀行保証	220,000 "	(220,000 ")	140,000 "	(140,000 ")
社債に対する銀行保証	190,000 "	(190,000 ")	50,000 "	(50,000 ")
長期借入金	513,100 "	(488,270 ")	656,322 "	(641,560 ")
外国為替関係保証	886 "	(886 ")	907 "	(907 ")
計	1,555,999 "	(1,505,668 ")	1,738,985 "	(1,714,155 ")

上記のうち、()内書は工場財団抵当並びに当該債務を示しております。

3 債権の流動化

債権の流動化による受取手形の譲渡残高は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
	85,010千円 (17,002千円)	72,717千円 (14,543千円)

上記のうち、()内書は代金留保額を示しており、流動資産の「その他」に含めて表示しております。なお、手形買戻義務の上限額は代金留保額と同額であります。

4 有形固定資産の圧縮記帳額

国庫補助金等により有形固定資産の取得価額から控除している圧縮記帳額及びその内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
圧縮記帳額	26,691千円	28,311千円
(うち、建物及び構築物)	26,691 "	28,311 "

5 期末日満期手形等

期末日満期手形等の会計処理については満期日に決済が行われたものとして処理しております。

なお、連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形等を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
受取手形	101,714千円	49,505千円
電子記録債権	8,213 "	14,666 "
支払手形	303,802 "	61,394 "
電子記録債務	"	198,679 "

(連結損益計算書関係)

1 期末たな卸高は収益性の低下による簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれておりません。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
売上原価	48,253千円	6,019千円

2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
運搬費	241,269 千円	254,059 千円
貸倒引当金繰入額	1,651 "	3,953 "
従業員給料手当	936,035 "	934,914 "
賞与引当金繰入額	83,436 "	63,095 "
退職給付費用	46,832 "	47,206 "
役員退職慰労引当金繰入額	5,280 "	5,071 "
旅費交通費	188,315 "	190,471 "
研究開発費	524,858 "	655,615 "

3 一般管理費及び当連結会計年度の製造費用に含まれる研究開発費の総額は、次のとおりであります。

前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
648,765千円	788,939千円

4 固定資産売却益の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
機械装置及び運搬具	1,232千円	千円

5 固定資産除却損の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
建物及び構築物	715千円	1,353千円
機械装置及び運搬具	328 "	1,847 "
その他(工具、器具及び備品)	148 "	781 "
計	1,192 "	3,982 "

6 減損損失

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

前連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上いたしました。

場所	用途	種類	減損損失
タイ	共用資産	建物及び構築物等	2,162千円

当社グループは主として管理会計上の区分に基づく資産のグルーピングを行っております。なお、連結子会社については、各会社を独立したキャッシュ・フローを生み出す最小の単位としてグルーピングを行っております。

当連結会計年度において、NEPON(Thailand) Co.,Ltd.では、当初想定した収益が見込めなくなったことから、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

なお、回収可能価額は使用価値により算定しておりますが、将来キャッシュ・フローが見込めないことにより、零と評価しております。

減損損失の内訳は、建物及び構築物680千円、その他1,404千円、無形固定資産77千円となっております。

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

該当事項はありません。

(連結包括利益計算書関係)

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	(千円)	
	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	883	25,049
組替調整額	4,528	537
税効果調整前	3,645	25,586
税効果額	2,504	1,125
その他有価証券評価差額金	1,140	24,461
為替換算調整勘定		
当期発生額	900	2,826
退職給付に係る調整額		
当期発生額	16,796	18,471
組替調整額	844	445
税効果調整前	15,952	18,025
税効果額	4,899	5,519
退職給付に係る調整額	11,052	12,506
その他の包括利益合計	9,010	14,781

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

1.発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首 株式数(株)	当連結会計年度増加 株式数(株)	当連結会計年度減少 株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
普通株式	12,028,480			12,028,480

2.自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首 株式数(株)	当連結会計年度増加 株式数(株)	当連結会計年度減少 株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
普通株式	49,915	1,864		51,779

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加1,864株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

3.新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4.配当に関する事項

(1)配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
2017年 6月29日 定時株主総会	普通株式	35,935千円	3円	2017年 3月31日	2017年 6月30日

(2)基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
2018年 6月28日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	35,930千円	3円	2018年 3月31日	2018年 6月29日

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

1.発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首 株式数(株)	当連結会計年度増加 株式数(株)	当連結会計年度減少 株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
普通株式	12,028,480		10,825,632	1,202,848

(注) 当社は2018年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行ったため、発行済株式の総数が10,825,632株減少し1,202,848株となっております。

2.自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首 株式数(株)	当連結会計年度増加 株式数(株)	当連結会計年度減少 株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
普通株式	51,779	117	46,602	5,294

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加117株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

3.新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
2018年 6月28日 定時株主総会	普通株式	35,930千円	3円	2018年 3月31日	2018年 6月29日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
2019年 6月27日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	35,926千円	30円	2019年 3月31日	2019年 6月28日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
現金及び預金	320,357千円	458,337千円
預入期間が3か月を超える 定期預金	85,000 "	73,000 "
現金及び現金同等物	235,357 "	385,337 "

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引

(借主側)

所有権移転ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

生産設備(機械及び装置)であります。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計方針に関する事項(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

社用車(車両運搬具)であります。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計方針に関する事項(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

2. オペレーティング・リース取引

(借主側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料 (単位:千円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
1年内	12,148	6,720
1年超	14,427	13,407
合計	26,575	20,127

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

設備投資計画に照らして、必要な資金（主に銀行借入や社債発行）を調達しております。また短期的な運転資金を銀行借入により調達しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

受取手形及び売掛金

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。

投資有価証券

投資有価証券は、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

長期貸付金

長期貸付金は、主に当社が関係会社に対し実行しているものであり、貸付先の信用リスクに晒されています。

支払手形及び買掛金

営業債務である支払手形及び買掛金は、その全てが1年以内の支払期日であります。

借入金、社債

借入金のうち短期借入金は主に営業取引に係る資金調達であります。長期借入金及び社債は、主に設備投資に係る資金調達であり、返済日及び償還日は最長で決算日後5年であります。変動金利の借入金及び社債は、金利変動リスクに晒されております。

リース債務

リース債務は、設備投資に係る資金調達であり、返済日は最長で決算日後5年であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

営業債権については、債権管理規程に従い、資金部が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

市場リスクの管理

投資有価証券については、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握し、取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

各部署からの報告に基づき、資金部が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません((注2)を参照ください。)

前連結会計年度(2018年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	320,357	320,357	
(2) 受取手形及び売掛金	2,960,961		
貸倒引当金 1	3,328		
	2,957,633	2,957,633	
(3) 投資有価証券	104,237	104,237	
(4) 長期貸付金	10,490	10,490	
資産計	3,392,717	3,392,717	
(1) 支払手形及び買掛金	1,182,344	1,182,344	
(2) 短期借入金	400,000	400,000	
(3) 長期借入金 2	1,047,426	1,044,540	2,885
(4) 社債 3	410,000	410,033	33
(5) リース債務 4	89,271	89,756	485
負債計	3,129,041	3,126,673	2,367

1 受取手形及び売掛金に係る貸倒引当金を控除しております。

2 1年内返済予定の長期借入金を含めております。

3 1年内償還予定の社債を含めております。

4 1年内返済予定のリース債務を含めております。

当連結会計年度(2019年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	458,337	458,337	
(2) 受取手形及び売掛金	2,893,349		
貸倒引当金 1	799		
	2,892,550	2,892,550	
(3) 投資有価証券	78,593	78,593	
(4) 長期貸付金	13,499		
貸倒引当金 2	6,361		
	7,138	7,138	
資産計	3,436,619	3,436,619	
(1) 支払手形及び買掛金	1,217,993	1,217,993	
(2) 短期借入金	600,000	600,000	
(3) 長期借入金 3	1,206,167	1,204,297	1,869
(4) 社債 4	190,000	189,998	1
(5) リース債務 5	71,767	72,159	392
負債計	3,285,928	3,284,449	1,478

- 1 受取手形及び売掛金に係る貸倒引当金を控除しております。
- 2 長期貸付金に係る貸倒引当金を控除しております。
- 3 1年内返済予定の長期借入金を含めております。
- 4 1年内償還予定の社債を含めております。
- 5 1年内返済予定のリース債務を含めております。

(注1)金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

(1) 現金及び預金 (2) 受取手形及び売掛金

これらはすべて短期で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

時価について、株式は取引所の価格によっております。

なお、有価証券は其他有価証券として保有しております。

(4) 長期貸付金

長期貸付金については、回収見込額等に基づいて貸倒見積額を算定しているため、時価は決算日における連結貸借対照表計上額から現在の貸倒見積高を控除した金額に近似しており、当該価格をもって時価としております。

負債

(1) 支払手形及び買掛金 (2) 短期借入金

これらはすべて短期で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 長期借入金(1年内返済予定の長期借入金を含む) (4) 社債(1年内償還予定の社債を含む)

(5) リース債務(1年内返済予定のリース債務を含む)

時価は、元利金の合計額を、同様の新規借入、新規社債発行又は、リース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(注2)時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位：千円)

区分	2018年3月31日	2019年3月31日
非上場株式	12,371	12,371

非上場株式は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難であるため時価開示の対象としておりません。

(注3)金銭債権及び満期がある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(2018年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)
現金及び預金	320,357	
受取手形及び売掛金	2,960,961	
長期貸付金		10,490
合計	3,281,318	10,490

当連結会計年度(2019年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)
現金及び預金	458,337	
受取手形及び売掛金	2,893,349	
長期貸付金		7,138
合計	3,351,687	7,138

(注4)長期借入金、社債及びリース債務の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(2018年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
長期借入金	362,853	278,881	230,035	139,488	36,169	
社債	220,000	140,000	50,000			
リース債務	22,697	22,762	22,827	20,982		

当連結会計年度(2019年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
長期借入金	398,989	350,143	259,596	156,277	41,162	
社債	140,000	50,000				
リース債務	23,875	23,951	22,118	1,146	675	

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(2018年3月31日)

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
株式	57,148	22,684	34,463
債券			
小計	57,148	22,684	34,463
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
株式	47,088	51,243	4,154
債券			
その他			
小計	47,088	51,243	4,154
合計	104,237	73,928	30,308

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額12,371千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度(2019年3月31日)

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
株式	48,064	22,627	25,436
債券			
小計	48,064	22,627	25,436
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
株式	30,528	51,243	20,714
債券			
その他			
小計	30,528	51,243	20,714
合計	78,593	73,871	4,722

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額12,371千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2. 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

区分	売却額 (千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
株式	7,956	4,559	
合計	7,956	4,559	

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

区分	売却額 (千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
株式	373	316	
合計	373	316	

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は確定給付型の制度として、退職一時金制度と確定給付企業年金基金制度を併用しております。

また、パートタイマーについては、退職一時金制度（非積立型制度）を設けており、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	(千円)	
	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
退職給付債務の期首残高	1,003,328	1,058,519
勤務費用	72,941	77,976
利息費用	6,722	7,078
数理計算上の差異の発生額	7,785	23,416
退職給付の支払額	32,258	31,959
退職給付債務の期末残高	1,058,519	1,088,197

(注) 簡便法による退職給付債務を含んでおります。

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

	(千円)	
	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
年金資産の期首残高	203,049	217,811
期待運用収益	1,340	1,459
数理計算上の差異の発生額	6,226	640
事業主からの拠出額	9,177	7,677
退職給付の支払額	1,982	4,548
年金資産の期末残高	217,811	221,759

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	(千円)	
	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	1,056,435	1,087,068
年金資産	217,811	221,759
	838,623	865,308
非積立型制度の退職給付債務	2,083	1,128
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	840,707	866,437
退職給付に係る負債	891,078	913,625
退職給付に係る資産	50,371	47,188
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	840,707	866,437

(注) 簡便法による退職給付債務を含んでおります。

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	(千円)	
	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
勤務費用	72,941	77,976
利息費用	6,722	7,078
期待運用収益	1,340	1,459
数理計算上の差異の費用処理額	549	4,750
確定給付制度に係る退職給付費用	77,774	78,844

(注) 簡便法で計算した退職給付費用は勤務費用に含めております。

(5) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	(千円)	
	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
数理計算上の差異	15,952	18,025
合計	15,952	18,025

(6) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	(千円)	
	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
未認識数理計算上の差異	2,357	20,383
合計	2,357	20,383

(7) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
一般勘定	53.3%	53.1%
債券	17.2%	18.5%
株式	28.0%	26.7%
その他	1.5%	1.7%
合計	100%	100%

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(8) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎(加重平均で表わしております。)

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
割引率	0.67%	0.67%
長期期待運用収益率	0.67%	0.67%

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
繰延税金資産		
税務上の繰越欠損金(注)	8,529千円	12,266千円
退職給付に係る負債	257,424 "	265,303 "
棚卸資産評価損	40,168 "	38,628 "
賞与引当金	41,588 "	36,752 "
役員退職慰労引当金	26,314 "	27,637 "
減価償却費限度超過額	19,686 "	18,847 "
投資有価証券評価損	10,617 "	10,617 "
減損損失	9,034 "	8,437 "
資産除去債務	4,311 "	4,311 "
未払事業税	7,383 "	3,429 "
会員権評価損	3,075 "	3,075 "
貸倒引当金	1,312 "	566 "
その他	9,376 "	7,976 "
繰延税金資産 小計	438,824 "	437,850 "
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額	8,529 "	12,266 "
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	53,381 "	54,049 "
評価性引当額小計	61,911 "	66,316 "
繰延税金資産 合計	376,913 "	371,534 "
繰延税金負債		
特別償却準備金	5,379 "	1,472 "
その他有価証券評価差額金	1,967 "	842 "
繰延税金負債 合計	7,346 "	2,315 "
繰延税金資産の純額	369,566 "	369,219 "

(注) 税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額

前連結会計年度(2018年3月31日)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金(a)			2,055	4,042	2,431		8,529千円
評価性引当額			2,055	4,042	2,431		8,529 "
繰延税金資産							

(a) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

当連結会計年度(2019年3月31日)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金(b)		2,031	3,995	2,403	3,835		12,266千円
評価性引当額		2,031	3,995	2,403	3,835		12,266 "
繰延税金資産							

(b) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった
 主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
法定実効税率	30.86%	30.62%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	4.03 "	7.91 "
住民税均等割等	8.90 "	16.44 "
評価性引当額	4.60 "	3.59 "
税額控除	13.41 "	"
その他	1.92 "	1.34 "
税効果会計適用後の法人税等の負担率	33.06 "	57.22 "

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

(1) 当該資産除去債務の概要

厚木事業所内における有害物質の除去・調査費用であります。

(2) 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を耐用年数及び当該契約の契約期間で見積り、割引率は1.56～1.93%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

(3) 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
期首残高	14,080千円	14,080千円
有形固定資産の取得に伴う増加額	"	"
時の経過による調整額	"	"
期末残高	14,080 "	14,080 "

(賃貸等不動産関係)

賃貸等不動産の状況及び時価に関する事項

当社では、東京都渋谷区において、賃貸用の土地を有しております。

2018年3月期における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は4,512千円(賃貸収益は営業外収益に計上)であります。

2019年3月期における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は4,123千円(賃貸収益は営業外収益に計上)であります。

また、当該賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、当連結会計年度増減額及び当連結会計年度末の時価は、次のとおりであります。

(単位：千円)

		前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
連結貸借対照表計上額	期首残高		
	期中増減額		
	期末残高		
期末時価		164,000	181,226

(注) 時価の算定は、主として「不動産鑑定評価基準」に基づいて自社で算定した金額(指標等を用いて調整を行ったものを含む。)であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

(1) 報告セグメントの決定方法

当社グループの報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、厚木事業所に製品・サービス別の事業本部を置き、事業本部は、取り扱う製品・サービスについて包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社グループは、事業本部を基礎とした製品・サービス別のセグメントから構成されており、「熱機器」、「衛生機器」の2つを報告セグメントとしております。

(2) 各報告セグメントに属する製品及びサービスの種類

「熱機器」は、施設園芸用温風暖房機及び施設園芸用ヒートポンプ、ビル・工場用温風暖房機等、「衛生機器」は、泡洗式簡易水洗便器及び水洗式簡易水洗便器等を生産しております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自2017年4月1日 至2018年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	熱機器	衛生機器	計		
売上高					
外部顧客への売上高	7,462,744	568,398	8,031,142	51,965	8,083,108
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-
計	7,462,744	568,398	8,031,142	51,965	8,083,108
セグメント利益又は損失()	1,346,818	99,471	1,446,290	21,358	1,424,931
セグメント資産	4,305,118	301,319	4,606,437	43,985	4,650,423
その他の項目					
減価償却費	125,794	10,419	136,213	697	136,911
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	11,878	36	11,915	-	11,915

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、農産物販売及び搬送機器サービス等が含まれております。

当連結会計年度(自2018年4月1日 至2019年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	熱機器	衛生機器	計		
売上高					
外部顧客への売上高	7,532,759	554,534	8,087,294	31,521	8,118,816
セグメント間の内部売上高 又は振替高					
計	7,532,759	554,534	8,087,294	31,521	8,118,816
セグメント利益又は損失()	1,379,303	105,414	1,484,718	23,994	1,460,723
セグメント資産	4,268,950	325,403	4,594,354	6,406	4,600,760
その他の項目					
減価償却費	122,846	9,863	132,709	683	133,393
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	7,387		7,387		7,387

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、農産物販売及び搬送機器サービス等が含まれております。

4. 報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

売上	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	8,031,142	8,087,294
「その他」の区分の売上高	51,965	31,521
セグメント間取引消去		
連結財務諸表の売上高	8,083,108	8,118,816

(単位：千円)

利益	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	1,446,290	1,484,718
「その他」の区分の損失()	21,358	23,994
セグメント間取引消去		
全社費用(注)	1,195,537	1,324,630
連結財務諸表の営業利益	229,394	136,093

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

(単位：千円)

資産	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	4,606,437	4,594,354
「その他」の区分の資産	43,985	6,406
セグメント間取引消去		
全社資産(注)	2,167,979	2,314,697
連結財務諸表の資産	6,818,403	6,915,457

(注) 全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない本社の余資運用資金(現金及び預金)、長期投資資金(投資有価証券)、管理部門に係る資産及び各セグメントに配分できない資産であります。

(単位：千円)

その他の項目	報告セグメント計		その他		調整額		連結財務諸表計上額	
	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度
減価償却費	136,213	132,709	697	683	45,321	45,966	182,232	179,359
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	11,915	7,387			103,177	197,061	115,092	204,449

(注) 調整額は、主に管理部門に係る資産及び各セグメントに配分できない資産に係るものであります。

【関連情報】

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
佐藤商事(株)	1,464,552	熱機器事業、衛生機器事業及びその他事業

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
佐藤商事(株)	1,623,588	熱機器事業、衛生機器事業及びその他事業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)	全社・消去	合計
	熱機器	衛生機器	計			
減損損失	2,162		2,162			2,162

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、農産物販売及び搬送機器サービス等が含まれております。

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1. 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者の取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等に限る)等

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金 又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
その他の関係会社	佐藤商事㈱	東京都千代田区	1,321,368	金属材料、電子材料等の国内販売及び輸出入	(被所有)直接30.16	当社製品の販売 材料の仕入	当社製品の販売	1,464,552	売掛金	770,604
							材料の購入	316,557	買掛金	34,085

(注) 1. 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 取引条件及び決定方針

製品・材料の購入・販売については、一般の取引条件と同様に決定しております。

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金 又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
その他の関係会社	佐藤商事㈱	東京都千代田区	1,321,368	金属材料、電子材料等の国内販売及び輸出入	(被所有)直接30.15	当社製品の販売 材料の仕入	当社製品の販売	1,623,588	売掛金	816,219
							材料の購入	363,394	買掛金	20,787

(注) 1. 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 取引条件及び決定方針

製品・材料の購入・販売については、一般の取引条件と同様に決定しております。

(イ) 連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る。)等

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
役員	福田公一	当社取締役会長	(被所有)直接5.22	債務被保証	当社銀行借入に対する債務被保証(注)	400,000		

(注) 当社は、銀行借入に対して取締役福田公一より債務保証を受けております。なお、保証料の支払は行っておりません。

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
役員	福田公一	当社 取締役会長	(被所有) 直接5.22	債務被保証	当社銀行借入 に対する債務 被保証 (注)	400,000		

(注) 当社は、銀行借入に対して取締役福田公一より債務保証を受けております。なお、保証料の支払は行っておりません。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引
 該当事項はありません。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
1株当たり純資産額	1,831円39銭	1,832円89銭
1株当たり当期純利益金額	125円36銭	43円87銭

- (注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。
2 2018年10月1日を効力発生日として、普通株式10株を1株とする株式併合を実施したため、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり純資産及び1株当たり当期純利益を算定しております。
3 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	150,144	52,535
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益(千円)	150,144	52,535
普通株式の期中平均株式数(株)	1,197,741	1,197,614

- (注) 1 2018年10月1日を効力発生日として、普通株式10株を1株とする株式併合を実施したため、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益を算定しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

銘柄	発行年月日	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	利率 (%)	担保	償還期限
第18回無担保変動利付社債 (注) 1	2013年 8月30日	20,000	()		無担保社債	2018年 8月31日
第19回無担保変動利付社債 (注) 1	2013年 10月25日	20,000	()		無担保社債	2018年 10月25日
第20回無担保変動利付社債 (注) 1	2014年 7月31日	60,000	20,000 (20,000)	0.13	無担保社債	2019年 7月31日
第21回無担保変動利付社債 (注) 1	2014年 7月31日	30,000	10,000 (10,000)	0.39	無担保社債	2019年 7月31日
第22回無担保変動利付社債 (注) 1	2014年 8月26日	30,000	10,000 (10,000)	0.49	無担保社債	2019年 8月26日
第23回無担保変動利付社債 (注) 1	2015年 7月27日	50,000	30,000 (20,000)	0.28	無担保社債	2020年 7月27日
第24回無担保変動利付社債 (注) 1	2015年 7月31日	100,000	60,000 (40,000)	0.13	無担保社債	2020年 7月31日
第25回無担保変動利付社債 (注) 1	2015年 7月31日	50,000	30,000 (20,000)	0.48	無担保社債	2020年 7月31日
第26回無担保変動利付社債 (注) 1	2015年 7月31日	50,000	30,000 (20,000)	0.40	無担保社債	2020年 7月31日
合計		410,000	190,000 (140,000)			

(注) 1. 「当期末残高」欄の(内書)は、1年内償還予定の金額であります。

2. 連結決算日後5年内における1年ごとの償還予定額の総額

1年以内 (千円)	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
140,000	50,000			

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	400,000	600,000	1.23	
1年以内に返済予定の長期借入金	362,853	398,989	0.92	
1年以内に返済予定のリース債務	22,697	23,875	0.32	
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く)	684,573	807,178	0.89	2020年～2023年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く)	66,573	47,892	0.35	2020年～2023年
その他有利子負債				
合計	1,536,697	1,877,934		

(注) 1 「平均利率」については、期末借入金等残高に対する加重平均利率を記載しております。

2 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年内における1年ごとの返済予定額の総額は以下のとおりであります。

(単位：千円)

区分	1年超2年 以内	2年超3年 以内	3年超4年 以内	4年超5年 以内
長期借入金	350,143	259,596	156,277	41,162
リース債務	23,951	22,118	1,146	675

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (千円)	1,382,803	3,533,901	6,215,401	8,118,816
税金等調整前四半期(当期)純利益金額又は税金等調整前四半期純損失金額() (千円)	242,329	173,268	158,456	122,817
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益金額又は親会社株主に帰属する四半期純損失金額() (千円)	176,855	133,530	87,932	52,535
1株当たり四半期(当期)純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額() (円)	147.67	111.49	73.42	43.87

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額() (円)	147.67	36.18	184.92	29.56

(注) 2018年10月1日を効力発生日として、普通株式10株を1株とする株式併合を実施したため、当連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期(当期)純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額()を算定しております。

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2018年3月31日)		当事業年度 (2019年3月31日)	
資産の部				
流動資産				
現金及び預金	1	310,611	1	422,209
受取手形	2, 5	500,573	2, 5	383,630
電子記録債権	5	509,812	5	541,978
売掛金	3	1,320,153	3	1,284,079
完成工事未収入金	3	632,792	3	683,639
商品及び製品		521,375		511,647
仕掛品		106,488		105,720
未成工事支出金		98,141		102,598
原材料及び貯蔵品		726,117		803,711
前払費用		34,545		30,082
未収入金	2	21,948	2	14,938
その他	3	73,165	3	3,972
貸倒引当金		38,326		802
流動資産合計		4,817,400		4,887,407
固定資産				
有形固定資産				
建物	1	512,651	1	611,776
構築物	1, 4	96,093	1, 4	99,361
機械及び装置	1	131,038	1	113,214
車両運搬具		940		905
工具、器具及び備品		93,195		86,304
土地	1	224,401	1	224,401
リース資産		84,477		68,091
建設仮勘定		700		2,800
有形固定資産合計		1,143,497		1,206,855
無形固定資産				
ソフトウェア		124,573		107,157
ソフトウェア仮勘定		25,580		462
電話加入権		3,604		3,604
無形固定資産合計		153,757		111,225
投資その他の資産				
投資有価証券	1	116,608	1	90,964
出資金		866		866
従業員長期貸付金		1,079		777
関係会社長期貸付金		-		99,465
破産更生債権等		92		202
長期前払費用		24,162		17,964
前払年金費用		50,792		44,767
繰延税金資産		369,812		375,383
保険積立金		57,942		62,379
会員権		30,803		30,419
その他		47,303		42,849
貸倒引当金		117		49,960
投資その他の資産合計		699,344		716,080
固定資産合計		1,996,600		2,034,161
資産合計		6,814,000		6,921,568

(単位：千円)

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形	5 834,770	5 235,140
電子記録債務	-	5 641,442
買掛金	3 248,357	3 238,916
工事未払金	84,390	96,067
短期借入金	1 400,000	1 600,000
1年内償還予定の社債	1 220,000	1 140,000
1年内返済予定の長期借入金	1 362,853	1 398,989
リース債務	22,697	23,875
未払金	19,482	4,723
未払費用	3 178,777	128,668
未払法人税等	76,919	32,574
未払消費税等	34,290	22,656
前受金	3,548	2,027
未成工事受入金	11,016	25,521
預り金	23,172	24,896
前受収益	700	700
賞与引当金	135,822	120,029
その他	7,100	41,656
流動負債合計	2,663,898	2,777,884
固定負債		
社債	1 190,000	1 50,000
長期借入金	1 684,573	1 807,178
リース債務	66,573	47,892
退職給付引当金	893,857	931,589
役員退職慰労引当金	85,939	90,260
資産除去債務	14,080	14,080
その他	11,311	11,311
固定負債合計	1,946,334	1,952,311
負債合計	4,610,233	4,730,196
純資産の部		
株主資本		
資本金	601,424	601,424
資本剰余金		
資本準備金	445,865	445,865
その他資本剰余金	34,597	34,597
資本剰余金合計	480,463	480,463
利益剰余金		
その他利益剰余金		
特別償却準備金	12,188	3,337
繰越利益剰余金	1,089,920	1,111,081
利益剰余金合計	1,102,109	1,114,418
自己株式	8,571	8,813
株主資本合計	2,175,425	2,187,493
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	28,341	3,879
評価・換算差額等合計	28,341	3,879
純資産合計	2,203,767	2,191,372
負債純資産合計	6,814,000	6,921,568

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2017年 4月 1日 至 2018年 3月 31日)	当事業年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)
売上高		
製品売上高	6,126,897	5,887,650
完成工事高	1,952,638	2,200,252
売上高合計	1 8,079,536	1 8,087,902
売上原価		
製品売上原価	3,829,690	3,590,828
完成工事原価	1,306,406	1,516,501
売上原価合計	1 5,136,096	1 5,107,329
売上総利益	2,943,440	2,980,572
販売費及び一般管理費	1, 2 2,723,462	1, 2 2,850,489
営業利益	219,977	130,083
営業外収益		
受取利息及び配当金	3,613	4,023
受取地代家賃	8,400	8,400
受取保険金	3,498	-
補助金収入	1,647	4,377
その他	3,689	3,380
営業外収益合計	20,850	20,182
営業外費用		
支払利息	19,443	20,794
その他	10,592	7,682
営業外費用合計	30,036	28,477
経常利益	210,791	121,788
特別利益		
固定資産売却益	3 1,232	-
投資有価証券売却益	4,559	316
収用補償金	29,598	1,620
特別利益合計	35,390	1,936
特別損失		
固定資産除却損	4 1,192	4 3,982
会員権評価損	650	-
関係会社株式評価損	3,665	-
固定資産圧縮損	26,691	1,620
特別損失合計	32,199	5,602
税引前当期純利益	213,982	118,122
法人税、住民税及び事業税	105,801	74,329
法人税等調整額	35,708	4,445
法人税等合計	70,092	69,883
当期純利益	143,889	48,239

【売上原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)		当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
材料費		2,577,350	58.8	2,633,853	63.0
労務費		533,384	12.2	502,420	12.0
外注加工費		952,653	21.7	835,041	20.0
経費		320,513	7.3	208,007	5.0
当期総製造費用		4,383,902	100.0	4,179,323	100.0
期首製品たな卸高		570,155		521,375	
合計		4,954,057		4,700,698	
期末製品たな卸高		521,375		511,647	
他勘定振替高		1,639		2,948	
完成工事振替高		601,353		595,274	
当期製品製造原価		3,829,690		3,590,828	

(注) 原価計算の方法

特定大型製品は個別原価計算の方法を採用しております。

その他の製品はいずれも組別工程別総合原価計算の方法を採用しております。

ただし、製品別原価計算は予定価格によっております。なお、前事業年度は実際原価との差額を期末に売上原価とたな卸高にそれぞれ対応させて配賦調整しており、当事業年度は、実際原価との差額が僅少であるため、売上原価として処理しております。

【完成工事原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)		当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
材料費		807,692	61.8	891,872	58.8
外注費		494,613	37.9	614,540	40.5
経費		4,100	0.3	10,089	0.7
(内人件費)		()	()	()	()
計		1,306,406	100.0	1,516,501	100.0

(注) 原価計算の方法は、個別原価計算であります。

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金		利益剰余金合計
					特別償却準備金	繰越利益剰余金	
当期首残高	601,424	445,865	34,597	480,463	21,009	973,145	994,155
当期変動額							
特別償却準備金の取崩				-	8,820	8,820	-
剰余金の配当				-		35,935	35,935
当期純利益				-		143,889	143,889
自己株式の取得				-			-
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)				-			-
当期変動額合計	-	-	-	-	8,820	116,775	107,954
当期末残高	601,424	445,865	34,597	480,463	12,188	1,089,920	1,102,109

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額 等合計	
当期首残高	8,135	2,067,907	29,482	29,482	2,097,389
当期変動額					
特別償却準備金の取崩		-		-	-
剰余金の配当		35,935		-	35,935
当期純利益		143,889		-	143,889
自己株式の取得	435	435		-	435
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)		-	1,140	1,140	1,140
当期変動額合計	435	107,518	1,140	1,140	106,377
当期末残高	8,571	2,175,425	28,341	28,341	2,203,767

当事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金		利益剰余金合計
					特別償却準備金	繰越利益剰余金	
当期首残高	601,424	445,865	34,597	480,463	12,188	1,089,920	1,102,109
当期変動額							
特別償却準備金の取崩				-	8,851	8,851	-
剰余金の配当				-		35,930	35,930
当期純利益				-		48,239	48,239
自己株式の取得				-			-
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)				-			-
当期変動額合計	-	-	-	-	8,851	21,160	12,309
当期末残高	601,424	445,865	34,597	480,463	3,337	1,111,081	1,114,418

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額 等合計	
当期首残高	8,571	2,175,425	28,341	28,341	2,203,767
当期変動額					
特別償却準備金の取崩		-		-	-
剰余金の配当		35,930		-	35,930
当期純利益		48,239		-	48,239
自己株式の取得	241	241		-	241
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)		-	24,461	24,461	24,461
当期変動額合計	241	12,067	24,461	24,461	12,394
当期末残高	8,813	2,187,493	3,879	3,879	2,191,372

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定しております。)

時価のないもの

移動平均法による原価法

2 たな卸資産の評価基準及び評価方法

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

(1) 商品及び製品・仕掛品・原材料及び貯蔵品

総平均法

(2) 未成工事支出金

個別法

3 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

当社は定率法を採用しております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 7～39年

機械及び装置 4～13年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

自社利用目的のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

市場販売目的におけるソフトウェアは、見込販売数量に基づく償却額と、残存販売有効期間に基づく均等配分額との、いずれか大きい額を計上する方法を採用しております。

なお、当初における販売有効期間は、3年としております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(4) 長期前払費用

定額法を採用しております。

4 繰延資産の処理方法

社債発行費は、支出時に全額費用として処理しております。

5 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

6 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売掛金等の債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異及び会計基準変更時差異の費用処理方法

数理計算上の差異については、発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(11年)による定率法により、発生した事業年度から費用処理することとしております。

パートタイマーにおける簡便法の採用

パートタイマーは、退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(3) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に充てるため内規に基づく当事業年度末要支給額を計上しております。

(4) 賞与引当金

従業員の賞与の支給に充てるため、将来の支給見込額のうち当事業年度末の負担額を計上しております。

7 収益及び費用の計上基準

完成工事高及び完成工事原価の計上基準

(1) 当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事

工事進行基準(工事の進捗率の見積りは原価比例法)

(2) その他の工事

工事完成基準

8 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(2) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

(表示方法の変更)

(貸借対照表)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日。以下「税効果会計基準一部改正」という。)を当事業年度の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更しました。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「流動資産」の「繰延税金資産」93,138千円は、「投資その他の資産」の「繰延税金資産」375,383千円に含めて表示しております。

(損益計算書)

前事業年度において「営業外収益」の「その他」に含めていた「補助金収入」(前事業年度1,647千円)は、金額の重要性が増したため、当事業年度より区分掲記しております。

前事業年度において区分掲記しておりました「営業外費用」の「社債保証料」(当事業年度2,329千円)は、金額が僅少となったため、当事業年度においては「その他」に含めて表示しております。

前事業年度において区分掲記しておりました「営業外費用」の「社債事務手数料」(当事業年度2,638千円)は、金額が僅少となったため、当事業年度においては「その他」に含めて表示しております。

(貸借対照表関係)

1 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
現金及び預金(定期預金)	2,000千円 (千円)	2,000千円 (千円)
建物	356,875 " (348,901 ")	338,505 " (330,992 ")
構築物	1,819 " (1,744 ")	1,727 " (1,652 ")
機械及び装置	1,724 " (1,724 ")	1,526 " (1,526 ")
土地	222,427 " (169,066 ")	222,427 " (169,066 ")
投資有価証券	46,886 " (")	30,397 " (")
計	631,733 " (521,436 ")	596,585 " (503,238 ")

担保付債務は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
短期借入金	400,000千円 (400,000千円)	600,000千円 (600,000千円)
1年内返済予定の長期借入金	232,013 " (206,512 ")	291,756 " (281,688 ")
1年内償還予定の社債に対する銀行保証	220,000 " (220,000 ")	140,000 " (140,000 ")
社債に対する銀行保証	190,000 " (190,000 ")	50,000 " (50,000 ")
長期借入金	513,100 " (488,270 ")	656,322 " (641,560 ")
外国為替関係保証	886 " (886 ")	907 " (907 ")
計	1,555,999 " (1,505,668 ")	1,738,985 " (1,714,155 ")

上記のうち、()内書は工場財団抵当並びに当該債務を示しております。

2 債権の流動化

債権の流動化による受取手形の譲渡残高は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
	85,010千円 (17,002千円)	72,717千円 (14,543千円)

上記のうち、()内書は代金留保額を示しており、流動資産の「未収入金」に含めて表示しております。なお、手形買戻義務の上限額は代金留保額と同額であります。

3 関係会社に対する金銭債権・債務

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
短期金銭債権	863,043千円	916,312千円
短期金銭債務	34,635 "	20,787 "

4 有形固定資産の圧縮記帳額

国庫補助金等により有形固定資産の取得価額から控除している圧縮記帳額及びその内訳は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
圧縮記帳額	26,691千円	28,311千円
(うち、構築物)	26,691 "	28,311 "

5 期末日満期手形等

期末日満期手形等の会計処理については満期日に決済が行われたものとして処理しております。

なお、当期末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形等を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
受取手形	101,714千円	49,505千円
電子記録債権	8,213 "	14,666 "
支払手形	303,802 "	61,394 "
電子記録債務	"	198,679 "

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
売上高	1,556,879千円	1,629,669千円
仕入高	322,482 "	383,167 "
販売費及び一般管理費	4,518 "	5,761 "

2 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度49%、当事業年度46%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度51%、当事業年度54%であります。

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
運搬費	240,194千円	252,332千円
貸倒引当金繰入額	12,133 "	12,349 "
従業員給料手当	923,663 "	918,161 "
賞与引当金繰入額	83,436 "	72,476 "
退職給付費用	46,832 "	47,206 "
役員退職慰労引当金繰入額	5,280 "	5,071 "
旅費交通費	186,261 "	188,134 "
減価償却費	29,929 "	25,143 "
研究開発費	524,858 "	655,615 "

3 固定資産売却益の内容は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
車両運搬具	1,232千円	千円

4 固定資産除却損の内容は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
建物	702千円	1,339千円
構築物	13 "	13 "
機械及び装置	328 "	1,797 "
車両運搬具	"	50 "
工具、器具及び備品	148 "	781 "
計	1,192 "	3,982 "

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
繰延税金資産		
退職給付引当金	258,146千円	271,544千円
賞与引当金	41,588 "	36,752 "
棚卸資産評価損	40,168 "	38,628 "
役員退職慰労引当金	26,314 "	27,637 "
減価償却費限度超過額	19,686 "	18,847 "
投資有価証券評価損	10,617 "	10,617 "
減損損失	9,034 "	8,437 "
未払事業税	7,383 "	3,429 "
資産除去債務	4,311 "	4,311 "
会員権評価損	3,075 "	3,075 "
貸倒引当金	12,022 "	15,794 "
その他	10,016 "	7,898 "
繰延税金資産 小計	442,366 "	446,976 "
評価性引当額	65,206 "	69,277 "
繰延税金資産 合計	377,159 "	377,698 "
繰延税金負債		
特別償却準備金	5,379 "	1,472 "
その他有価証券評価差額金	1,967 "	842 "
繰延税金負債 合計	7,346 "	2,315 "
繰延税金資産の純額	369,812 "	375,383 "

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
法定実効税率	30.86 %	30.62 %
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	4.22 "	8.22 "
住民税均等割	9.33 "	17.09 "
評価性引当額	1.70 "	3.45 "
受取配当金	0.0 "	0.48 "
税額控除	14.06 "	"
その他	4.11 "	0.26 "
税効果会計適用後の法人税等の負担率	32.76 "	59.16 "

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期償却額 (千円)	当期末残高 (千円)	減価償却 累計額 (千円)
有形固定資産						
建物	512,651	140,166	1,339	39,700	611,776	1,257,344
構築物	96,093	14,340	13	11,059	99,361	414,920
機械及び装置	131,038	11,661	1,797	27,687	113,214	740,787
車両運搬具	940	496	50	481	905	9,997
工具、器具及び備品	93,195	20,348	781	26,457	86,304	753,041
土地	224,401				224,401	
リース資産	84,477	5,654		22,039	68,091	110,112
建設仮勘定	700	194,765	192,665		2,800	
有形固定資産計	1,143,497	387,431	196,648	127,425	1,206,855	3,286,203
無形固定資産						
ソフトウェア	124,573	34,518		51,933	107,157	
ソフトウェア仮勘定	25,580	9,401	34,518		462	
電話加入権	3,604				3,604	
無形固定資産計	153,757	43,919	34,518	51,933	111,225	

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	38,443	15,816	3,497	50,762
役員退職慰労引当金	85,939	5,071	750	90,260
賞与引当金	135,822	120,029	135,822	120,029

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 公告掲載URL http://www.nepon.co.jp
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求をする権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当てを受ける権利以外の権利を有しておりません。

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社に親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第71期）（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

2018年6月28日 関東財務局長に提出。

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

2018年6月28日 関東財務局長に提出。

(3) 四半期報告書及び確認書

（第72期第1四半期）（自 2018年4月1日 至 2018年6月30日）

2018年8月10日 関東財務局長に提出。

（第72期第2四半期）（自 2018年7月1日 至 2018年9月30日）

2018年11月9日 関東財務局長に提出。

（第72期第3四半期）（自 2018年10月1日 至 2018年12月31日）

2019年2月8日 関東財務局長に提出。

(4) 臨時報告書

2018年7月3日 関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2の規定（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2019年 6月27日

ネポン株式会社
取締役会 御中

清 明 監 査 法 人

指定社員 業務執行社員	公認会計士	貞 國	鎮
指定社員 業務執行社員	公認会計士	加 賀	聡

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているネポン株式会社の2018年4月1日から2019年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ネポン株式会社及び連結子会社の2019年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、ネポン株式会社の2019年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、ネポン株式会社が2019年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
 - 2 X B R L データは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2019年6月27日

ネボン株式会社
取締役会 御中

清 明 監 査 法 人

指定社員 業務執行社員	公認会計士	貞	國	鎮
指定社員 業務執行社員	公認会計士	加	賀	聡

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているネボン株式会社の2018年4月1日から2019年3月31日までの第72期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ネボン株式会社の2019年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
 - 2 X B R L データは監査の対象には含まれていません。